資　料　編

- フォーラム参加者アンケート集計結果
- 保存活用計画関連新聞記事等
- 七尾城跡の本質的価値
- 能登畠山氏・七尾城跡略年表
- 七尾城跡に関する主な事業一覧表

アンケート調査ご協力のお願い

七尾市教育委員会

本日は、ご参加いただきありがとうございます。

皆様のご意見・ご感想を、今後の七尾城跡（あと）の保存活用のために参考とさせていただきます。

（なお、このアンケートは他の目的には利用いたしません。）

以下の該当する項目を〇で囲んで下さい。

１．教えてください。

・性　別　　① 男　　② 女

・年　齢　　①10 代　②20 代　③30 代　④40 代　⑤50 代　⑥60 代　⑦70 代以上

・住　所　　県　　市・町

２．七尾城跡を訪れたことがありますか

①ある　　②ない

３．どのような理由でフォーラムにご参加されましたか。

① 興味があったから　　② 町会･知人等からの紹介　　③ その他（　　）

４．本日のフォーラムの内容はご理解いただけましたか。

① 理解した　　② はぼ理解した　　③ 難しかった　　④理解できなった

５．今後、七尾城跡の保存活用の取り組みを実施すべきですか。

①実施すべき　　②実施すべきでない（理由：　　）

６．５．①で実施すべきと答えた方に伺います。

今後、七尾城跡の保存活用の取り組みをどのように実施すればよいですか。

①市民向けフォーラムの開催　　②発掘調査　　③遺跡整備（建物復元も含む）

④景観整備　　⑤ガイダンス施設の建設　　⑥その他（　　）

７．七尾城跡に関するご意見・ご感想をご自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました。

（アンケート記入日　平成２９年１２月１０日）

〈史跡七尾城跡保存活用計画策定フォーラムアンケート結果〉

【回　答　率】 78.2%　　アンケート回答者115人　　フォーラム参加者147

1．教えてください。

・性別　① 男性　77人　② 女性　37人

・年齢　① 10代　0人　② 20代　6人　③ 30代　10人
④ 40代　14人　⑤ 50代　17人　⑥ 60代　32人
⑦ 70代以上　36人

・住所　① 県外　2人　② 県内　5人　③ 市内　89人

2．七尾城を訪れたことがありますか。

① ある　106人
② ない　6人

3．どのような理由でフォーラムに参加したか。

①興味があったから　73人
②町会・知人等からの紹介　28人
③その他　9人

※その他の内容
・市役所で知った
・広報・新聞・回覧板を見て
・動員要請・職場の依頼を受けて

4．本日のフォーラムの内容を理解したか。

①理解した　39人
②ほぼ理解した　53人
③難しかった　13人
④理解できなかった　1人

5．今後七尾城の保存活用の取り組みを実施すべきか。

①実施すべき　107人
②実施すべきじゃない　2人

※実施すべき理由
・整備の点で成功しているお城を参考にして行う
・すべきだともうが条件次第だと思う

※実施すべきじゃない理由
・自然のままにしておくべきだと思う
・保存は必要だと思うが復興などの整備は不要

6．5で①実施すべきと答えた方に伺います。
今後、七尾城の保存活用の取り組みをどのように実施すればよいか。（複数回答可）

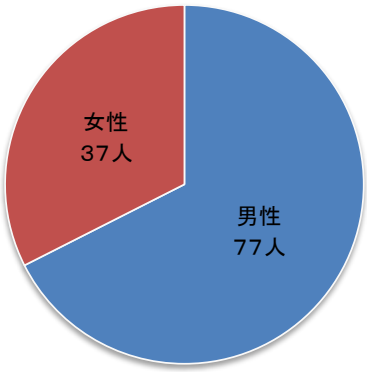
①市民向けフォーラムの開催　43人
②発掘調査　60人
③遺跡整備（建物復元も含む）　60人
④景観整備　47人
⑤ガイダンス施設の建設　24人
⑥その他　6人

※その他の意見
・観光資源、観光振興としての活用
・景観整備のために保安林の一部伐採
・遊歩道の整備
・登城イベントや歴史を学べる講座の開催
・レーザー測量での航空写真等の配置

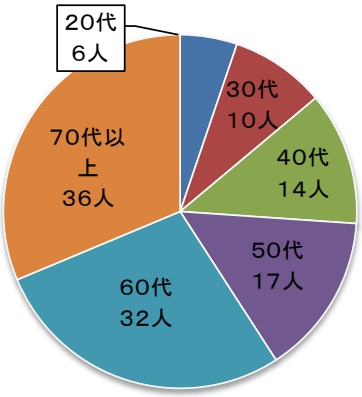
7．七尾城に関するご意見・ご感想をご自由にお書きください。

56～59項を参照

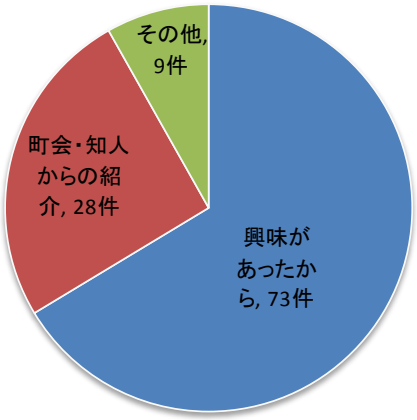
1、参加者の性別割合



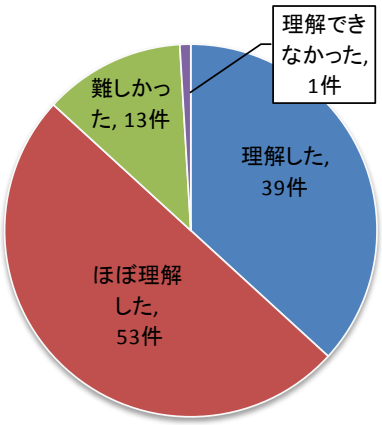
1、参加者の年齢層



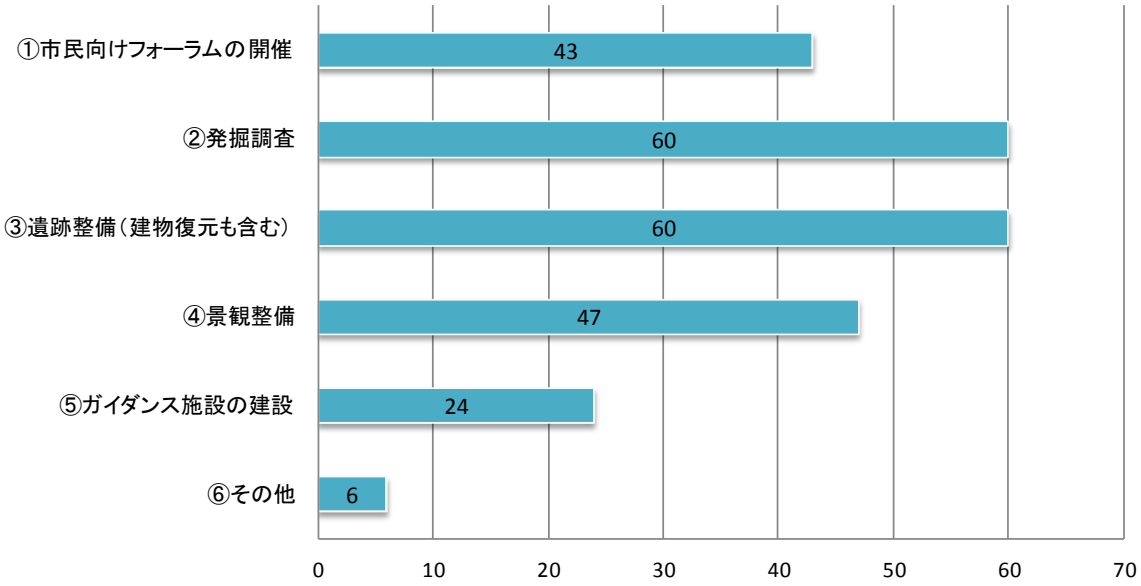
3、どのような理由でフォーラムに参加したか。



4、本日のフォーラムの内容を理解したか。



6、5で①実施すべきと答えた方に伺います。 今後、七尾城の保存活用の取り組みをどのように実施すればよいか。（複数回答可）



７、七尾城に関するご意見・ご感想をご自由にお書きください。

・お話の中でおっしゃられていた小池ヶ原砦は自分たちの身近なものなのではと思いを深めている。楽しいフォーラムだった。

・市民に知らせ、七尾城や歴史について深く知ることができた。もっと聞きたいのでこういう機会をもっと作ってほしい。久しぶりに城跡まで行ってみようと思った。

・大人は外に向けて発信する。七尾の小・中学生に知らせることが大切。

・フォーラムをとても面白く聞かせてもらい七尾城跡に魅力を感じた。今後の取り組みに期待したい。

・七尾城を市民がもっと関心を持てたらいいと思う。今夜は旧道を上りたいと思う。

・レーザー図を解説付きで見ることができてよかった。ふつうに見てもよくわからなかったと思う。

・今回のレーザー測量の成果に感動した。東四柳先生のお話で文献のほうでもアプローチができる場所が増えたと感じた。『のと里山里海ミュージアム』も開館するのでどのように活用されていくのか楽しみ。

・歳月が流れるにつれ、七尾城に「戦国時代の城としての価値」と「偉大さ」が加わってきていると思う。レーザー測量等によるより正確な調査で裏付けがされてきていると感じる

・せっかく本丸跡からの景観が良いのに大木にさえぎられていて見る事が出来ない部分があって残念。これからも七尾の宝を守っていきたい。

・当時の生活が分かればと思う。千田先生の解説はわかりやすく、ユニークを交えてあり大変良かった。

・千田先生の地道な研究成果とアピール力により、七尾城が唯一無二の構造を残す城で、貴重な史料価値があることが分かった。

・いつもながら千田先生のお話は楽しかった。また東四柳先生のお話は初めてでしたがとても分かりやすかった。ぜひブラタモリで七尾城を取り上げてもらい、タモリさんと千田先生の共演が見たい。

・子供の時から馴れ親しんだ七尾城が顕在化するのが楽しみ。歩いて登って楽しい山にしてほしい。

・今まで七尾城跡の知識に乏しかったが、レーザー測量図を用いてのフォーラムでとても分かりやすく学ぶ事が出来た。日本最大級の城郭という発見に感動した。市はこの発見を活用し、さらに七尾城の発展に努めるべきだと思う。整備の面で、野生動物（熊・イノシシ）対策も考慮しては？

・近くにこんなに素晴らしい城跡があるのにほとんど知らなかった。見に行ったときに看板などが少なく迷った。全国的に広めても十分価値のある城だと思う。あとは宣伝の仕方（ネット情報が少ない。ホームページが見難い）

・七尾城跡、畠山氏、上杉氏、名前は聞いていたが、今回参加して歴史の面白さに触れる事が出来てよかった。七尾城の歴史をもっと PR し、市民に知っていただくことが必要だと思った。

・戦国最大級の山城、七尾城をまず市民に広く知っていただくことが急務である。そのための活動が足りない。文化事業団ももっと取り組むべき。実際に何を行っているのか全く分からない

・七尾市出身の漫画家（宮下英樹 氏）に七尾城の歴史について子供たちにもわかりやすい言葉で漫画にしてもらい、広く広めてほしい。

・城好きな人だけでなく、小さな子供から親しめるような施設なども整備できればいい。そうすれば彦根城のように多くの人が訪れると思う。(マスコットキャラクターもシナリオの中に入っている)

・城山（旧）道の階段状の木材、三の丸～二の丸への急な段を低く再整備してほしい。ところどころ丸太でもいいがベンチがほしい。

・実際のビデオや写真があれば想像しやすいと感じた。解説板（防御施説、工夫など）がほしい。

・全国の城の研究者やファンに対して調査研究の成果を積極的に発信してもらいたい。保存の気運を高め、外堀を埋めたうえで予算をつけてもらう。まずは知ってもらうことが大切だと思う。

・観光振興につなげ誘客促進の政策が必要。もっと積極的な PR を！城のジオラマ制作などしてほしい。
・行政の動きも本格的化したように思う。代官道路や砦もより重要視すべきだと感じている。これからに期待している。

・国の特別史跡指定を生きている間に実現してほしい。七尾城を日本一の山城にしてほしい。

・いつか春日山城のような観光地になって、七尾の観光のシンボルとしてほしい。

・七尾城の遺構を市民に分かりやすいように整備してほしい。復元建物などを将来的に実現してほしい。

・子供のころから何度も遊びに行っている、とてもいいところ。自然と景観を壊さないよう保存してもらいたい。30 年、50 年を見据えた整備を！

・スピード感を持って発掘調査や景観整備、遺跡整備を実施してほしい。「七尾城跡保存活用計画」には市民の声や専門家の意見も取り入れてほしい。七尾城の全貌解明がとても楽しみだ。

・「実は七尾はすごい」と全国に告知したほうがいいと思う。行政以外の市民ボランティアの活動がポイントになってくると思う。

・市民がまず勉強すべき。認識不足だと感じる。歴史の課程に七尾城を入れる。まず学校で教えること。そして、市民が七尾の歴史（生い立ち）を知る方策を。

・あえて観光 PR はいらないと思う。現状のままにしておく。朽ちていくものは自然の摂理だと思う。

・発掘による歴史解明は期待したいが場所が広すぎる。場所を限定し、一部を復元・観光地として開発するとこから取り掛かったほうがいい。上田城のような VR を取り入れるのもいいと思う。

・素晴らしい城跡。そのままの保存も大切だが、城好きのみならずよりポピュラーに市民や県民・ファンが親しめるよう復元や遺跡整備をしてほしい。そして名実ともに日本一の遺跡にしてほしい。

・入口にその時代に応じた門、本丸跡に小さくてもいいので天守閣を作ってほしい。その時代に思いをはせたい。

・観光資源として大々的に整備する。(道路整備、大型バスでも大丈夫な大きい駐車場やトイレなど)。発掘調査をし、復元も重点的に行ってほしい。

・市民、国民の関心ある施設の復旧が先決。保存のために保存の域を出ることが大切。無駄な公共事業にならないようにしてほしい。

・七尾城の全貌が考古学、航空レーザー、文献史料等から改めて知る事ができ、その活用が求められていると思う。出来るなら学生たちに広く理解してもらう機会があればいいと思う。

・矢田町の大門側からはどのように出入りしていたのか知りたい。(大門道及びかくし道、また尾根道は七尾城からどう利用したのか、畠山氏の前期・後期についてなど) できるだけおしえてほしい

・七尾城、小丸山城をセットにした観光売り込みをしてはどうか。

・石垣を見やすくするために、本丸付近の木を取り除くなど、景観を良くしてほしい。

・未知の部分を解明し、先生方の言われる特別史跡の指定を目指してほしい。又、七尾城へ訪れる多くの人々によって七尾に経済面でのプラス部分を期待したい。

新聞記事・広報等

七尾城は「山の要塞都市」

航空レーザー測量図初公開

七尾市が国史跡「七尾城跡」で行った航空レーザー測量調査の市民説明会が10日、七尾中で開かれ、国内最大級の山城・七尾城の全貌が解説された。城下の外れの巨大な堀や、尾根を人工的に断ち切って敵の進行を阻止する「堀切り」跡がみられ、専門家は「山の地形を巧みに利用した見事な要塞都市の姿が浮かぶ」と指摘し、国特別史跡の指定を目指すべきとの意見も出された。

市民説明会で全貌解説

七尾市は2015年度から、地形の凹凸が分かる航空レーザー測量を実施し、七尾城の全体像を明らかにした。10日の説明会には160人が来場した。

史跡七尾城跡保存活用計画策定委員を務める奈良大の千田嘉博教授は、初公開となる七尾城の地形の3D画像を解説した。城がある山には要所要所の砦だけでなく、尾根を切った「堀切り」が随所に設けられていたとし「自然地形を利用するだけでなく、堀や土塁で厳重な防御ラインが形成され、恐るべき都市の姿が浮かび上がる」と指摘した。

長屋敷跡では、土塁が本丸側面をカバーするように設けられ、奥には従来分かっていた巨大な堀とは別の堀も確認できたとし、三重の堀で敵の侵入を防いでいたと判明。千田教授は「七尾城跡は国特別史跡に相当する価値がある」と評価し、調査結果を全国的にPRすべきと助言した。

同委員会副委員長の東四柳史明金沢学院大名誉教授は、文献資料をもとに重臣の長氏が多くの家来を連れて七尾城に籠城した歴史を紹介し「軍事力を結集させるだけの広さが七尾城にあった」と解説した。

七尾城の最新調査結果が示された市民説明会＝七尾市七尾中

初公開された七尾城跡の航空レーザー測量図。随所に堀切の跡がみえる

北國新聞 平成29年12月12日（火）

三つのとりで 城の一部

七尾城「要塞都市」

全国屈指

レーザー測量で明らかになった七尾城の地形

城跡レーザー測量の調査結果

専門家らでつくる史跡七尾城跡保存活用計画策定委員会が、七尾城跡をレーザー測量した調査結果の発表報告会が十日、七尾中学校であった。測量の分析結果や文献とのつながりなどから、全国屈指とされる山城の「要塞都市」としての姿が浮かび上がった。（松村真一郎）

堀切や土塁も多数確認

委員の一人、千田嘉博奈良大教授は、データを分析。本丸から東側の半径約一キロにある三つのとりでが、これまでは城から独立していると考えられていたが、地形のつながりから城の一部だと結論づけた。

調査によって、敵の侵入を防ぐ堀切や土塁の跡も多数確認され、「戦う城として万全の形が整っていた、いわば要塞都市だった」と述べた。

副委員長の東四柳史明金沢学院大名誉教授は、上杉謙信に攻め落とされた七尾城の戦いの際に、能登畠山氏の家臣長氏が大軍を率いていたことを文献を用いて紹介。長氏の屋敷とみられる場所が大規模だったことが、測量で判明し、「長氏の兵士たちが、戦いの拠点としていた可能性がある」と話した。委員長の谷内尾晋司・石川考古学研究会顧問、国分秀二・七尾城山を愛する会長を加えたシンポジウムもあった。

同委員は、二〇一五年度から三年計画で、城跡の調査や今後の保存方法の検討をしている。一五年に航空機によるレーザー測量を実施し、分析や図面化を進めてきた。

レーザー測量の分析結果を説明する千田嘉博教授＝七尾中で

北陸中日新聞

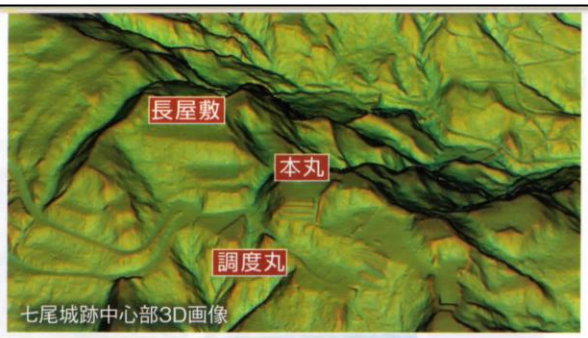
平成 29 年 12 月 13 日（水）

フォーラム参加者の声

近くにこんなに素晴らしい城跡があるのに、ほとんど知りませんでした。城跡を見に行った時は、看板などが少なくて迷いました。全国に広めても十分価値のある城だと思います。あとは宣伝の仕方かと。とても良いフォーラムでした。（30代女性）

城好きな人だけでなく、小さな子どもたちが山に親しめるような施設なども整備されれば、たくさんの人が訪れてくれると思います。（50代男性）

優先順位を決めて、スピード感を持って発掘調査や景観・遺構の整備を実施してほしいです。史跡七尾城跡保存活用計画には、市民の多くの声や専門家の意見を取り入れてほしいです。（60代男性）



七尾城跡中心部3D画像

従来はなかなか見ることができなかった堀や土塁などの遺構を正確にとらえることができ、初めて七尾城の全貌が解明できました。これは七尾城跡の価値が急激に高まる画期的な調査結果です。城下町から山城まですべてが残る戦国時代の拠点城郭は、全国でも七尾城跡だけで、遺跡の国宝である特別史跡に匹敵する歴史的価値があります。まずは市民の皆さんにこのことを理解していただき、日本中のお城好きに広めてほしいです。

文献史料から見た レーザ測量図の成果

金沢学院大学
名誉教授
東四柳　史明

「七尾」の名称は、永正11（1514）年に初めて確認されます。その11年後には七尾城内の第7代畠山義総の館で歌会が行われていることから、この頃には七尾城が整備されています。史料によると戦乱時の七尾城では籠城策が取られていましたが、このたびのレーザ測量図で明らかにされた大型の屋敷地はこうした記録を裏付けするものと思われます。上杉謙信の書状から、今回明らかにされた七尾城の全容は畠山氏の段階に整えられたものだと改めて考えさせられます。

七尾城の実像と 今後の取り組み

七尾城山を愛する会の会長を務める国分秀二さんが加わり、七尾城跡の今後の取り組みが議論されました。

毎日のように七尾城跡に登る国分さんは「城跡だけでなく、豊かな自然も残してほしい」と話し、熊出没の可能性やイノシシが石垣や遊歩道を荒らしている状況に危機感を募らせました。

東四柳さんは「能登畠山家は戦国大名として地味なイメージがあるが、文化活動を盛んに行うだけの経済力があり、戦国大名の中でも長く生き延びてしっかりと国を守った立派な大名です。地元の我々がもっと評価をするべきです。金沢城より先に特別史跡になるように取り組みましょう」と参加者に向かって語り掛けました。

七尾城山を愛する会
会長
国分　秀二

千田さんは「市民が、七尾城跡はまちの宝であり、素晴らしい史跡だから調査を応援しよう、整備してまちづくりをやっていこうとする思いを寄せてほしい」と期待しました。谷内尾さんは「昭和9年以前に史跡になった城跡のほとんどが特別史跡に指定されています。七尾城跡も特別史跡を目指して頑張りたいと思います。七尾城跡は大変広く、整備や活用は行政の力だけではなかなか難しく、市民のボランティア活動などが不可欠です。そのためには七尾城跡の情報を発信し、理解を深めることが大切です。市民の皆さんの意見を反映させながら、今後も取り組んでいきます」とフォーラムを締めくくりました。

七尾城跡中心部復元CG画像

能登立国
1300年

よみがえる七尾城
～七尾城の実像を探る～

七尾城跡は、昭和9（1934）年に国の史跡に指定された日本屈指の戦国時代の山城。日本五大山城の一つとされ、日本100名城にも選ばれる本市が誇る歴史遺産です。

市は3月に史跡七尾城跡保存活用計画を策定して今後の七尾城跡の保存や活用、整備の方針を示し、市民と行政が連携して山城と城下の価値を守り、学び、楽しみながら次世代に確実に伝えることを目指します。

12月10日、七尾中学校でフォーラムが行われ、平成27年度から実施したレーザ測量図を初公開しました。計画策定に携わり、城や能登畠山氏を研究する専門家が、来場した約160人を前に明らかになった七尾城の全体像や歴史を解説し、今後の七尾城跡の保存と活用について熱く語りました。

これまでの取り組み

石川考古学研究会
顧問
谷内尾　晋司

七尾城跡は戦前に国の史跡に指定され、その重要性は早くから認識されてきました。指定当初は6・8ヘクタールでしたが、公共工事に伴う遺跡調査によって想定を超える遺跡の広がりと、大規模な曲輪などの遺構が良好に残っていることが判明しました。将来にわたって保存できるように追加指定に取り組む必要があります。能越自動車道建設の際、追加指定を目指すエリアの真上を通るルートが発表された時は、遺構を守るために国と協議を重ね、重要遺構を避けるようなルートや工事方法に見直されました。市は平成27年度までに本丸や二の丸周辺など城郭中心部を公有地化し、史跡整備に向けて取り組んでいます。

また、七尾城史資料館や七尾城まつり、七尾城山を愛する会の活動、日本100名城スタンプラリーなど、七尾城跡の素晴らしさを広く知ってもらう活用の取り組みが行われています。七尾城跡の登山者は年間2万人を超え、県外からの来訪者が多くなり、ボランティアガイドはろうななおの説明は評判がよく、観光地として定着しています。

レーザ測量図から見た七尾城跡の新評価

奈良大学
教授
千田　嘉博

現在の七尾城跡は木々が生い茂り、緑が美しい一方で、400年前の七尾城の様子は分かりにくい状況です。今回が初公開の七尾城跡のレーザ測量図は、樹木が無い当時の城の状況を見ることができます。

七尾城山道路愛護クリーン大作戦に参加

城山を守る地域の皆さんの力になれた

天神山小学校　5年生

呉山　優太さん　矢田　栞音（かのん）さん

呉山　優太さん

3年生の時から家族とクリーン大作戦に参加しています。城山は地域の皆さんが協力してきれいにしている大事なものなので、自分も頑張るぞという気持ちで今年も取り組みました。冷蔵庫やテレビなどの粗大ごみは重たくて、持ち運ぶのに苦労しました。中学生になっても参加し続けてきれいな城山を守りたいです。

矢田　栞音さん

金属のごみがさびていたり、虫もたくさんくっついていたりして作業は大変でしたが、ごみが片付くと城山がきれいになったんだなと清々しい気持ちになりました。冷蔵庫などの大きなごみが捨てられていて、何でこんなことをするのかなと信じられない気持ちです。地域の人が一生懸命取り組んでいたので、これから七尾城まつりやあかつき登山で城山のことをもっと知りたいと思います。

2年前の8月11日(山の日)には、ごみの多いところに児童が描いたポスターを使った看板を設置した。

分別作業に汗を流す5年生。腐臭や舞い上がる砂ぼこりにも臆せず作業に当たる。

遊歩道の木製チップ散布に参加

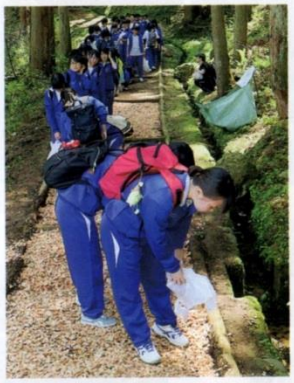
たくさんの人に七尾城跡を訪れてほしい

七尾高等学校　2年生

白江　恵さん　山本　早恵さん

安田　有容弥（あゆみ）さん

初めて七尾城跡を訪れましたが、登山中に山の隙間から見える市街地がとてもきれいで、自然の豊かさも楽しみながら登りました。木製のチップは香りが良く、散布することで歩きやすくなるので、たくさんの人に訪れてほしいと思います。そして七尾城跡の素晴らしさがもっと広まることで、地域の皆さんの力になれればうれしいです。

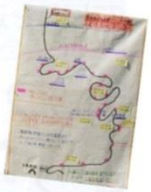


2年生240人が遊歩道約54メートルにぬかるみを解消する木製チップ700キログラムを敷き詰めた。

地域住民一丸となった清掃活動
七尾城山道路愛護クリーン大作戦を実施

地域を挙げて美しい城山を取り戻す

七尾市不法投棄監視員　川淵　正さん



事前に下見をして、ごみの多いポイントを手作りの地図に書き示している

平成21年から市の不法投棄監視員として矢田郷地区を月2回パトロールしています。地域の方から不法投棄情報を収集する中で、平成28年3月に七尾城山を愛する会の国分事務局長（現会長）から、城山の不法投棄が大変多いという相談を受けました。早速見に行ったところ、脇道や崖下に想像をはるかに超える量の不法投棄物が散在していたのです。

この悲惨な状況を目の当たりにし、永田公民館長（現コミュニティセンター長）と大河まちづくり協議会長に、毎年4月の第3週に行われている城山開山祭の前日に、地域を挙げて清掃活動を行いませんかと提案しました。「きれいになった城山へたくさんの人に訪れてもらいたい」。その思いの輪が広がって、関係者が重機や軽トラックを出してくれることになり、クリーン大作戦の企画に至りました。地区のさまざまな総会で参加協力を依頼し、天神山小学校や七尾東部中学校にもチラシを作って声掛けし、当日は初回にも関わらず200人近くのボランティアが集まりました。

作業で集まった不法投棄物はタイヤ約200本、その他のごみを合わせるとトラック十数台分にもなりました。1日で全て回収することはできませんでしたが、2年3年と続けてきたことで徐々に量が減ってきたのが目に見えて分かり、参加者全員が手応えを感じています。また、地域のために役立とうと、崖下を果敢に下りてごみを拾う生徒や、きびきびと分別作業に当たる児童の姿は見ていて頼もしく、とても感心しています。

不法投棄を完全に取り締まったり、ごみをゼロにしたりすることは難しいですが、みんなで力を合わせてきれいにした城山にたくさんの観光客が訪れている様子を見ると、やりがいを感じます。私たち地域住民が昔から慣れ親しんできた城山の美しい景観を保てるよう、これからも活動を継続していこうと思います。

冷蔵庫やテレビなどの大型家電のほか、タイヤなど処分費の掛かるごみが崖下に捨てられている。足場の悪い場所での作業は危険と隣り合わせだ。

77回目を迎える七尾城まつりの企画・運営を受け継ぐ

変わる城山、変わらない城山 どちらも大事にしたい

矢田郷地区青壮年会協議会　会長　田中　孝昌さん

青壮年会協議会は公民館（現まちづくり協議会）が行っている清掃活動への協力のほか、毎年9月中旬に開催している七尾城まつりでは主力となって企画や運営を行っています。七尾城まつりは昭和17年から住民有志が受け継いできた伝統ある祭りです。地域住民が城山への愛着を深める機会になるようにと、本丸付近を主会場に大人から子どもまで楽しめるイベントを開催しています。ここ数年は悪天候のため城山体育館での開催となりましたが、お年寄りや小さな子どもがたくさん訪れ、展示ブースも多く設営できるなど「城下町のにぎわいを再現するまつり」という新たな構想が芽生えるきっかけとなりました。時代の流れやニーズに合わせて内容を少しずつ変えながら、より多くの人が城山に訪れる機会を作っていければと思います。

本丸駐車場までしか車は乗り入れられず、会場の設営は大変な作業。メンバーの結束力が欠かせない。

私個人としましては、5年程前からトレイルランを始め、週1～2回城山を登っています。もともと体力を付ける目的で始めて、多い時は6～7往復しているのですが、四季折々に変化する城山の景観や自然に心打たれています。春から夏にかけては緑の濃淡が美しく、秋が深まって空気が澄んでくると同じ景色も違って見えてきます。水ぶきやタラの芽などの山菜を探したり、鳥のさえずりに耳を澄ませたりと、自然と対話するという新たな楽しみを得たことで、協議会活動への思いも一段と深まったように感じます。

七尾城跡の調査は今後も進めてほしいですし、市のシンボルとしてさらなる活用が必要だと思う一方で、地元住民としては大切な地域の宝がむやみに踏み荒らされたくないという思いもあります。観光地としての部分と保護すべき部分をしっかり分けて、変わらない城山の心地よさも残ると良いなと思います。

第74回七尾城まつり。住民有志が多彩なイベントを繰り広げ、城山ににぎわいを生み出してきた。

気さくな人柄と高い向上心でまちの誇りを伝える

笑顔とおもてなしの心で七尾城跡の魅力を届けたい

七尾市観光ボランティアガイドはろうななお　会長　佐野　藤博さん

はろうななおは結成して今年で24年目を迎えます。会員の大半は70歳前後で、24人のガイドが年間1万4千人以上の観光客に市内の名所の魅力を伝えています。

城山への来訪者は大河ドラマや城ブームに乗って一気に増加し、私たちが案内したお客さまの人数も、平成28年度は約3900人だったのが、平成29年度は8800人を超えました。毎年4月から6月にかけて来訪者のピークを迎え、今年の大型連休のうち5月5日は1日で300人以上も訪れています。

私たちが七尾城跡の素晴らしさをより多くの人に伝えようと、4月下旬から10月末までの土・日、祝日の無料ガイドを始めたのは4年前です。男女問わず幅広い年齢層の人が訪れ、歴史や城にどれだけ精通しているかもさまざまですから、お客さまの様子を見ながら話し方や内容などを変えられるスキルが必要になります。また、能登全体の歴史や地理、城山の生態系も知らなければ深みのある話ができませんから、学習を重ねてそれぞれスキルアップを図っています。大手旅行会社からのガイド要請も年々増え、ガイド一人一人の向上心と熱意が届いているのかなと感じています。

ガイドは観光地という材料をおいしくする調味料のような存在という佐野さん。高齢化によるガイド不足は観光地のにぎわいの衰退につながりかねないと危機感を募らせている。

私自身が感じる七尾城跡の魅力といえば、本丸からの景観はもちろん、従来の城跡のイメージそのままに、何ら手が加えられずに残されているという歴史的価値でしょうか。遺構の配置からも11代169年続いた能登畠山氏の安定した治世が垣間見え、大小の石がバランスよく、かつ耐久性も十分に考慮されて積み上げられた4層4段の石垣は、当時、石工などの優秀な職人や文化人が京都からこぞってやってきた畠山文化の栄華を感じさせます。この魅力を限られた時間で余すことなく伝えるために、分かりやすさや気を引く会話、アドリブも取り入れながら案内し、最後にお客さまから「ありがとう」と握手を求められたり「また家族や友達を連れて来るね」と言っていただけたりするとガイド冥利に尽きるものです。これからも観光客の皆さんに良い思い出を作ってもらえるよう、私たちとのひとときを飽きさせずいかに楽しく過ごしてもらえるかを考えながら、ガイドを続けていこうと思います。

先人が残した宝 七尾城跡は今―

遺構保存に警鐘

七尾城跡は、戦国時代の山城（城郭）と城下（町並み）の遺構がセットとなって良好な状態で保存されてきた、全国的にも数少ない遺跡です。

一方で、将来に向けて保存や活用をしていく上では、さまざまな課題を抱えています。地震や大雨などの自然災害で石垣が崩れる被害や野生動物（イノシシ）による被害がたびたび発生し、遺構の保存に影響を及ぼしています。また、城下の遺構が地域住民の生活圏に及ぶこともあり、インフラ整備などに伴う開発行為の影響で、地形が徐々に変化し遺構が失われつつあります。そのほか、山林の荒廃やごみの不法投棄により、七尾城跡の魅力の1つである本丸からの眺望や山林の景観保全にも影響が出ています。

イノシシによる被害（西の丸）

市民と行政が連携して守る

七尾城跡を安定的かつ長期的に守っていくためには、市民と行政が一体となって保存と活用に取り組んでいく仕組みを作る必要があります。

自然災害などによる遺構損傷の進行を防ぐためには、地域住民と行政が連携して遺構を保護していくことが大切です。また、被害を最小限に抑えるためには、日頃から遺構の現状や変化を的確に把握しておく必要があります。そのため、行政による日常的なパトロールだけではなく、地域住民や観光ボランティアの目も不可欠になります。

また、七尾城跡の景観を守るために、除草や樹木管理などの日常管理も実施していかなければなりません。具体的には、木製チップを散布したチップ道は歩きやすさや雑草対策の面でも評判が良いので今後延伸することが望ましいのですが、年一回取り替える必要があるなど管理や経費の面で課題があります。

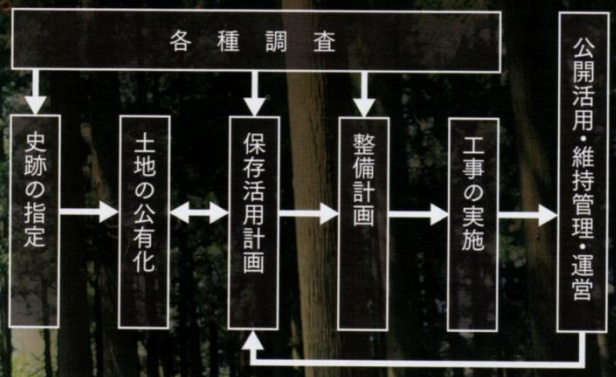
未来に残すために今できること

七尾城跡は市の宝であると共に、郷土の証しでもあります。七尾城跡の価値を将来にわたって守り伝えていくためには、これまで実施いただいている市民ボランティアの取り組みを拡大しながら、より多くの人に七尾城跡の魅力に触れていただくことが大切です。市民の皆さんが楽しみながら学びや気付きを深め、七尾城跡の価値を次の世代に伝えていくことができるように、今後も幅広く情報を発信していきます。

七尾城跡は、戦国時代に能登畠山氏が築いた山城で、日本五大山城、日本100名城にも選ばれた本市が誇る歴史遺産です。

市では、今後の七尾城跡の保存や活用、整備の方針を示した「史跡七尾城跡保存活用計画」（以下「計画」とする）を今年3月に策定しました。この計画は、市民と行政が連携して、七尾城跡の価値を「守り」・「学び」・「楽しみ」ながら、次世代に確実に伝えることを目指すものです。

今、七尾城跡の来訪者数は、交通アクセスの向上や近年の城ブームなどにより大幅に増えています。さらに、能登立国1300年の今年10月に開館する「のと里山里海ミュージアム」で、航空レーザ測量の成果を活用した七尾城跡のジオラマ模型が公開されることから、ますます注目を浴びることが予想されます。こうした中で、市の宝である七尾城跡が持つ史跡や自然などの価値を守り、より多くの人に知ってもらうためにも、七尾城跡がどのような課題を抱えており、何をしていく必要があるのかを理解することは大切なことです。



史跡七尾城跡の保存活用の主な流れ

史跡七尾城跡保存活用計画書は市ホームページで閲覧できます。

野面積みの苔むした石垣、本丸からの息を呑む景観、四季折々の自然の美しさ―。「城山」の愛称で親しまれる七尾城跡で当たり前のようにあった光景が、環境の変化で年々失われつつあります。先人たちが築き、守り続けてきた市の宝を残すために、何ができるでしょうか。一人一人がその魅力や価値を伝えていくことで、数十年後、数百年後の七尾城跡が変わるかもしれません。

七尾城跡の本質的価値

「七つ尾」に喩えられる尾根筋の自然地形を巧に利用した堅固で広大な城郭は、日本屈指の拠点城郭であり、城郭と城下が一体的で良好な状態で残っている。その実態は、城郭や城下の構造、変遷を解明する上において極めて重要な遺跡である。

具体的には、

①城郭は、尾根筋に築かれた独立性が高い曲輪群の集合体で、山頂部と山麓部の曲輪群に大別され、曲輪群をつなぐ尾根筋は、堀切によって遮断されている。

②城内には、戦国期からの多数の石垣が認められ、防御や防災など多様な機能が想定される。

③城下は、東西・南北軸の主要道路による整然とした町割りのもと形成され、中心部を横断する惣構えを築いて再編している。

④能登畠山氏に関する文献史料が比較的多く残っており。城郭や城下の遺構の動向を窺うことが出来る。

⑤城郭中心部は、七尾湾から能登半島、邑知地溝帯から日本海を望む要の立地にあり、周辺を遠望する景観も重要である。

曲輪（本丸 東から）

石垣（桜馬場 北側）

町割（城下の屋敷地）

堀（惣構え）

能登畠山氏・七尾城関係略年表

年号	（西暦）	おもな出来事	領主		拠点
建武3年	（1336）	足利尊氏が征夷大将軍となり、室町幕府を開く。			府中（守護代所）
明徳2年	（1391）	畠山基国、河内・越中とともに、能登守護となる。	畠山	基国（もとくに）	
応永13年	（1406）	畠山基国が没し、次男満慶が家督を継ぐ。		満慶（みつのり）	
15年	（1408）	畠山満慶、畠山家の家督を兄の満家に譲り、満家から能登守護を与えられる。能登畠山家（畠山匠作家）を創設する。	能登畠山	初代　満慶（みつのり）	
永亨4年	（1432）	畠山満慶没し、長男義忠が家督を継ぐ。		二代　義忠（よしただ）	
享徳4年	（1455）	この頃、畠山義統が守護となる。祖父の義忠が隠居する。		三代　義統（よしむね）	
応仁元年	（1467）	畠山義統、西軍方で応仁の乱に参戦する。			府中　守護館
文明10年	（1478）	応仁の乱が終わり、この頃、畠山義統、能登に下向する。			
15年	（1483）	畠山義統、府中守護館で連歌会を催し、「賦何船連歌」が詠まれる。			
延徳2年	（1490）	畠山義元、能登に下向する。			
明応6年	（1497）	畠山義統没し、長男義元が家督を継ぐ。		四代　義元（よしもと）	
9年	（1500）	守護代の遊佐統秀ら、義統の次男慶致を守護に擁立する。義元は越後へ逃れる。		五代　慶致（のりむね）	
文亀3年	（1503）	畠山慶致、父義統の7回忌法要を瑞応山大寧寺で行う。			
永正5年	（1508）	畠山義元、越後から戻り、再び能登守護となる。		六代　義元（よしもと）	
12年	（1515）	畠山義元没し、慶致の長男義総、能登守護となる。		七代　義総（よしふさ）	七尾城（山城と城下）
大永3年	（1522）	七尾の召月庵で「賦何船連歌」が詠まれる。			
5年	（1525）	七尾城内の義総邸で「賦何船連歌」が詠まれる。			
6年	（1526）	畠山義総、七尾城内で歌会を催し、冷泉為広・為和父子、列席する。			
天文8年	（1539）	絵師の長谷川等伯（信春）、七尾に生まれる。			
13年	（1544）	禅僧の彭叔守仙が「独楽亭記」に七尾城と城下のようすを記す。			
14年	（1545）	畠山義総没し、次男義族が家督を継ぐ。		八代　義続（よしつぐ）	
16年	（1547）	畠山駿河（義総の弟）ら、能登に侵入し、重臣の温井総貞らによって鎮圧される。			
19年	（1550）	この頃、能登の内乱（遊佐続光と温井総貞の対立）によって七尾城下が焼失する。			
20年	（1551）	この頃、重臣七名からなる「畠山七人衆」が領国支配の実権を握る。		九代　義綱（よしつな）	
		この頃、畠山義続の長男義綱が守護となる。隠居した義続は悳裕と号し、義綱の後見人となる。			
弘治元年	（1555）	畠山義統・義綱父子らが、温井紹春を謀殺し、大名権力の回復をはかる。			
永禄9年	（1566）	重臣らが畠山義綱を追放し、長男義慶を守護に擁立する。		十代　義慶（よしのり）	
天正2年	（1574）	畠山義慶、重臣に毒殺され、弟義隆が家督を継ぐ。		十一代　義隆（よしたか）	
天正4年	（1576）	越後の上杉謙信、能登へ攻め入り、七尾城を囲む。			
天正5年	（1577）	遊佐・三宅・温井氏らが上杉方に内応し、開城に反対する長氏一族を謀殺する。七尾城が落城し、能登畠山氏が滅亡する。	上杉	謙信（けんしん）	
		上杉方の鯵坂長実が七尾城代となる。			
天正6年	（1578）	上杉謙信、急死する。（43歳）		景勝（かげかつ）	
天正7年	（1579）	温井景隆ら鯵坂長実を追放し、七尾城を奪い返す。			
天正9年	（1581）	織田信長、菅屋長頼を七尾城代とし、温井景隆・三宅長盛が石動山へ退き、その後越後へ行く。	織田	菅屋長頼（すげのや ながより）	
		前田利家、織田信長より能登一国を与えられる。	前田	利家（としいえ）	
		織田信長、菅屋長頼に能登・越中の城割りを命じ、安土へ戻らせる。			
天正10年	（1582）	本能寺の変で織田信長が自害する。（49歳）			
		温井景隆・三宅長盛ら、越後勢とともに石動山に入るが。前田利家・佐久間盛政らによって滅ぼされる。利家、石動山を焼き討ちする。（石動山・荒山の合戦）			
		この頃から、前田利家が所口の小丸山に築城を開始する。			
天正11年	（1583）	前田利家、豊臣秀吉より、石川、河北二郡を与えられ金沢（尾山）へ移る。			
		前田安勝（利家の兄）が、七尾城代となる。		城代　安勝（やす かつ）	
天正12年	（1584）	前田利家、加越国境などで越中の佐々成政と戦う。			
		佐々成政勢が七尾城を包囲する。			
天正13年	（1585）	佐々成政、羽柴秀吉に降伏する。			
天正17年	（1589）	愛宕山の気多本宮や小島・所口の百姓屋敷を明神野に移す。			小丸山城（平山城と城下）
文禄2年	（1593）	前田利家の次男利政、豊臣秀吉より能登一国を与えられる。		利政（としまさ）	
文禄3年	（1594）	前田安勝没する。長男利好が七尾城となる。		城代　利好（としよし）	
文禄4年	（1595）	所口の惣構え堀の閉削を進める。			
慶長4年	（1599）	前田利家、大阪で没する（63.歳）			
慶長5年	（1600）	関ヶ原の戦い。			
		前田利政が改易され、利政領は加賀藩領となる。		利長（としなが）	
慶長8年	（1603）	徳川家康、江戸幕府を開く。			
慶長15年	（1610）	前田利好没する。利家三男知好が七尾城代となる。		城代　知好（ともよし）	
		長谷川等伯、江戸で没する。（72歳）			
元和元年	（1615）	「一国一城令」が出される。			
元和2年	（1616）	七尾城代前田知好（利家三男）、京へ上り七尾（小丸山）城廃城。			

七尾城跡に関する主な事業一覧表（史跡指定以降）

昭和	9 年	(1934)	9 月	文部省技官己巳巳巳人氏が、本丸から三の丸、長屋敷などの中心部の測量を行う。
			12 月 28 日	本丸跡を中心とした63,674㎡（4筆）が、国の史跡となる。（管理者：鹿島郡矢田郷村）
	14 年	(1939)	7 月	町村合併で、史跡管理者が矢田郷村から七尾市になる。
	17 年	(1942)	5 月	城山を顕彰するため、能州文化振興会（のちに能州文化連盟と改称）を結成。
			10 月	本丸跡に「七尾城址石碑」（高さ5.4m、幅1.3m、重さ4t）と城山神社を建立。
				能州文化振興会が、第1回七尾城まつり（10月21日～23日）を開催。
	31 年	(1956)	3 月	七尾城址保存会が結成される。
	32 年	(1957)		石垣復旧工事(3カ年)の事前調査として、指定地の測量を行い石垣の所在を明確にする（市）。
				国庫補助事業で、調度丸西側石垣を修復する（市）。
	33 年	(1958)		国庫補助事業で、本丸北側(上・中・下段)、桜馬場北側(上・中・下段)の石垣の一部を修復する（市）。
	34 年	(1959)		国庫補助事業で、本丸登り口石垣、遊佐屋敷北側の石垣を修復する（市）。
	38 年	(1963)	6 月	豪雨により昭和33年度に修復した本丸北側石垣（3段）が再び崩落する。
			10 月 2 日	七尾城史資料館が開館する（畠山一清氏寄附）。
	41 年	(1966)	9 月	七尾市が史跡指定地を公園用地として、利用するため土地所有者から無償で借用する。
			11 月	国庫補助事業で、昭和38年に再度崩落した本丸北側石垣(下段)を修復する（切り石・モルタルとする）（市）。
	42 年	(1987)	12 月	国庫補助事業で、昭和38年に再度崩落した本丸北側石垣(中・上段)を修復する（切り石・モルタルとする）（市）。
				大呑地区開拓計画（昭和36年10月22日起工式)に伴い、古屋敷町から城山へ通じる開拓道路（現在の一般県道城山線）が完成する。
	43 年	(1968)	3 月	調度丸から樋の水までの遊歩道142m改修（一部で石段・側溝の設置)する（市）。
				長屋敷の北側の曲輪を削平して、本丸北駐車場(1,129㎡)を造成する（市）。
			5 月	本丸を中心とした8.6haが能登半島国定公園（第1種特別地域）に指定される。
			11 月	赤坂口（登り口・蔵屋敷の分岐）から樋の水までの旧道1,100mを改修(路面整正・拡張）する（市）。
	45 年	(1970)	5 月	中心部の遊歩道を整備(路面整正・階段設置、延長370m：安寧寺～三の丸、三の丸～温井屋敷）する（市）。
	48 年	(1973)		県費補助事業で、木落川上流での砂防堰堤（4号）に伴い、遺構調査を行う（市）。
			10 月	本丸の東側800mの百間馬場付近の標高380mの尾根に城山展望台とそれに伴う駐車場などを整備する（市）。
	50 年	(1975)	10 月	国庫補助事業で、豪雨(昭和47年・49年）により崩落した樋の水付近67mを修復（水路・擁壁）する（市）。
	53 年	(1978)	3 月	航空測量による遺構平面図作成及び、地籍調査を行う（市）。
	54 年	(1974)	3 月	**『七尾城跡保存管理計画』を策定する（市）。**
	55 年	(1980)	2 月 12 日	畠山清二氏寄付金を基金として、「七尾城址文化事業団」を設立する。
	56 年	(1979)	11 月	国庫補助事業で、二の丸～三の丸～袴腰までの遊歩道440mを改修する（市）。
平成	元 年	(1989)	3 月	「七尾城山を愛する会」が結成される。
			12 月	国庫補助事業で、崩落した桜馬場北側石垣（下段：A0404）を修復する（市）。
	3 年	(1991)	9 ～ 11 月	城下北辺のシッケ地区の発掘調査で、はじめて城下の町並みの遺構と遺物を発見する（市）。
	5 年	(1993)	10 月	整備に向けた七尾城跡調査整備委員会を組織し、協議を開始する（市）。
	7 年	(1995)	3 月	七尾城跡の地籍調査を行い、地籍合成図を作成する（市）。
			9 月	国庫補助事業で、城下の範囲確認調査を開始する(H7～H10 4カ年）（市）。
	8 年	(1996)	3 月	**「国指定史跡 七尾城跡整備基本構想」を策定する（市）。**
	9 年	(1997)	9 月	能越自動車道（七尾氷見道路）七尾区間のルートが発表される。
	12 年	(2000)	2 月 15 日	「七尾城跡保存管理計画策定委員会」を組織し、協議を開始する(H11～H13 3カ年）（市）。
			2 月 22 日	能越自動車道（七尾氷見道路）七尾区間（城山地区）が都市計画決定される。
			3 月	能越道を含めた城山地区6.8㎢の空中写真測量図を作成する（市）。
	13 年	(2001)	3 月	小丸山城（小丸山城址公園）の空中写真測量図を作成する（市）。
	14 年	(2002)	3 月	**「七尾城跡保存管理計画」を策定する（市）。**
	17 年	(2005)	～	能越自動車道建設に伴う七尾城下の発掘調査を石川県埋蔵文化財センターが開始する（県）。 （第1次～3次調査、H17～19年度）
	19 年	(2007)	3 月 25 日	能登半島地震により、桜馬場最下段石垣（A0405）、本丸登り口石垣(A0104)が崩落する。
			7 ～ 10 月	能越自動車道建設仮設道路建設に伴う城下の発掘調査を市が実施し、シッケ地区の拡がりを確認する（市）。
			10 月 16 日	豪雨により、七尾城跡中心部の斜面や遊歩道20箇所が崩落する。
			31 日	平成9年に着工した七尾城跡と石動山をつなぐ「林道城石線」が開通する（延長10,680m）。
	19 年 20 年	(2007) (2008)	～	国庫補助事業で、能登半島地震により崩落した石垣A0405、A0104および、豪雨により崩落した斜面や遊歩道等11箇所を修復する（市）。なお、石垣A0405の修復に伴い実施した発掘調査は、山城ではじめて実施したもので、石垣の変遷を伺う成果が得られた(H19～H20 2カ年）。
	20 年	(2008)		能越自動車道建設（橋脚・側道部分）に伴う発掘調査を石川県埋蔵文化財センターが開始する（県）。 （第4次～9次調査、H20～25年度）
	22 年	(2010)	4 月	石垣調査を開始する（市）(H22～26 5カ年）。
	23 年	(2011)	2 月 7 日	山城中心部の34筆、202，495㎡が国の史跡に追加指定される（指定地面積が266,169㎡となる）。
	24 年	(2012)	2 月 10 日	国庫補助事業で、二の丸周辺13,501.60㎡をはじめて公有化する（市）。
	25 年	(2013)	2 月 28 日	国庫補助事業で、二の丸西側の稗子畑29,501.69㎡を公有化する（市）。
	26 年	(2014)	7 月 10 日	国庫補助事業で、寺屋敷周辺35,841.77㎡を公有化する（市）。
			10 月 5 日	史跡指定80年記念事業（城あるき。城ばなし。講師：春風亭昇太師匠、千田嘉博氏）を実施する。
				あわせて、国庫補助事業で作成した七尾城跡CGを初公開する（市）。
	27 年	(2015)	2 月 28 日	能越自動車道（七尾氷見道路）が全線開通する。
			7 月 31 日	国庫補助事業で、七尾城跡航空レーザ測量事業を開始する（市）(H27～H29 3カ年）。
			10 月 2 日	国庫補助事業で、本丸周辺17,086.80㎡を公有化する（市）。本丸から二の丸までの公有化を完了する。
	28 年	(2016)	2 月 19 日	史跡七尾城跡保存活用計画策定委員会を組織する（市）。
	30 年	(2018)	3 月 31 日	**「史跡七尾城跡保存活用計画」を策定する。**

付　　編

- 平成 27～29 年度 七尾城跡来訪者アンケート結果
- アンケート結果から見た七尾城跡の保存活用の取り組みに関する今後の課題について

平成 27～29 年度　七尾城跡来訪者アンケート結果

□目　的：七尾城跡の整備・活用（保存活用計画）のため

□実施者：七尾市教育委員会（文化課）・七尾市観光ボランティア「はろうななお」

□期　間：平成 27 年 8 月 8 日～11 月 7 日までの土・日曜日　延べ 20 日間
平成 28 年 4 月 29 日～10 月 30 日までの土・日・祝日　延べ 60 日間
平成 29 年 4 月 29 日～10 月 28 日までの土・日・祝日他　延べ 50 日間

□方　法：七尾市観光ボランティア「はろうななお」及び文化課職員が、七尾城跡本丸駐車場で来訪者に実施（任意）。

□内　容：別紙アンケート用紙（７０頁）のとおり

□結　果：

【平成２７年度】

１ 性別（回答４６０人）　男性２９９人、女性１６１人
２ 年代（回答４５５人）　３０歳代まで１１７人、４０歳代以上３３８人
３ 住所（回答４３９人）　関東１１４人、北陸東海１３１人と多く、市内３７人
４ 交通（回答４４８人）　自家用車３６６人
５ 訪問（回答４５３人）　はじめて３８３人
６ 目的（回答４５２人）　観光行楽レジャー４０１人
７ 印象（回答７１２人、複数回答可）　石垣・自然５２５人、ガイド１７２人
８ 史跡（回答４５１人）　知っていた２３４人、知らなかった２１７人
９ 整備（回答４４９人）　すべき３１７人、すべきでない１３２人

【平成２８年度】

１ 性別（回答７９０人）　男性４８７人、女性３０３人
２ 年代（回答７８７人）　３０～６０歳代で６１４人以上と多くを占める
３ 住所（回答７６２人）　関東１９８人、北陸東海２１１人と多く、市内３２人
４ 交通（回答７８１人）　自家用車６５１人
５ 訪問（回答７８５人）　はじめて６８２人
６ 目的（回答７９０人）　観光行楽レジャー６７３人
７ 印象（回答１２６６人、複数回答可）石垣が６８９人
８ 史跡（回答７８５人）　知っていた４４７人、知らなかった３３８人
９ 整備（回答７７６人）　すべき５４８人、すべきでない２２８人

【平成２９年度】

１ 性別（回答６４８人）　男性４２５人、女性２２３人４０～６０歳代
２ 年代（回答６４５人）　４０～６０歳代で４２５人を占める
３ 住所（回答６４１人）　関東１７３人、近畿東海１００人以上で、市内 19 人
４ 交通（回答６３５人）　自家用車５１１人
５ 訪問（回答６４９人）　はじめて５８５人
６ 目的（回答６５０人）　観光行楽レジャー５７２人
７ 印象（回答９８１人、複数回答可）石垣・自然７７８人、ガイド 189 人
８ 史跡（回答６４２人）　知っていた３４７人、知らなかった 295 人
９ 整備（回答６２０人）　すべき４３９人、すべきでない１８１人

アンケート調査ご協力のお願い

七尾市教育委員会

本日は、ご来訪ありがとうございます。

皆様のご意見・ご感想を、今後の七尾城跡（あと）整備・活用のために参考とさせていただきます。

（なお、このアンケートは他の目的には利用いたしません。）

1　おしえてください。
・性　別　　① 男　　② 女
・年　齢　　①９才以下②10 代　③20 代　④30 代　⑤40 代　⑥50 代　⑦60 代　⑧70 代以上
・住　所　　（　　）都道府県　　（　　）市町村

2　どのような交通手段で来られましたか？
① 自家用車　② バス　③ タクシー　④ その他（　　）

3　七尾城跡のご来訪は何回目ですか？
① はじめて　② ２回　③ ３回　④ ４回以上（回数：　　）

4　ご来訪の目的を教えてください。
① 観光・行楽・レジャー　②学習・調査　③ その他（　　）

5　何が印象に残りましたか？（複数可）
① 石垣などの遺構群　② 自然環境　③ ガイド　④ その他（　　）

6　七尾城跡が国の史跡であることをご存知でしたか？
① 知っていた　②知らなかった

7　七尾城跡の整備事業を実施すべきでしょうか？
① 実施すべき　②実施すべきでない

8　７で①実施すべきと答えた方にどのように整備すれば良いかお聞きします。
① 建物復元　② 石垣などの遺構復元　③ 樹木伐採　④その他（　　）

9　７で②実施すべきでないと答えた方にその理由をお聞きします。
① 現状が良い　② 経費がかかるため　③ その他（　　）

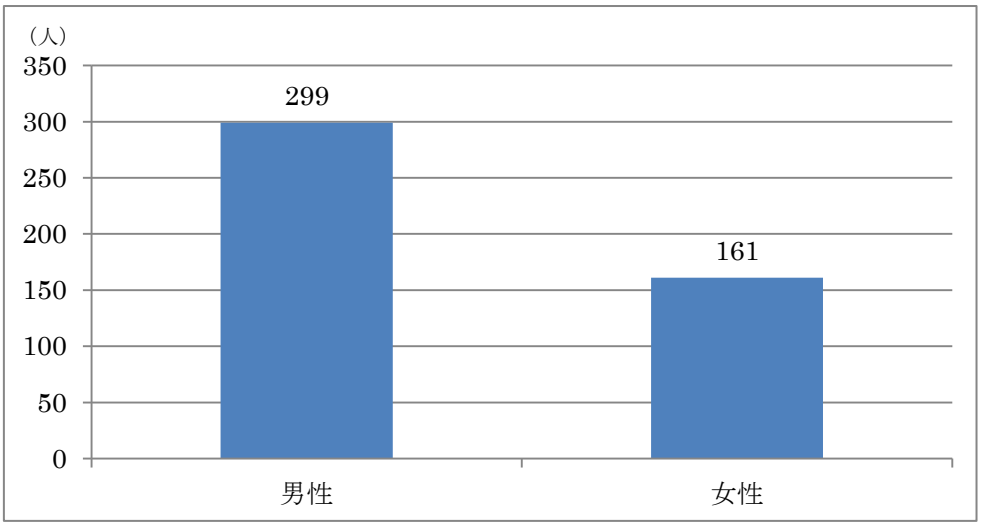
10　七尾城跡に関するご意見・ご感想をご自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました。

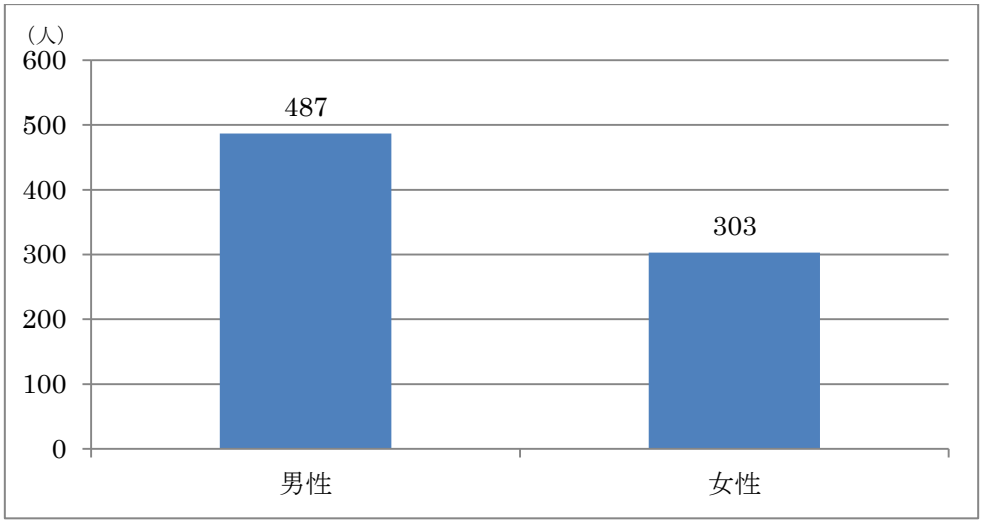
（アンケート記入日　平成　　年　月　　日）

1　性別

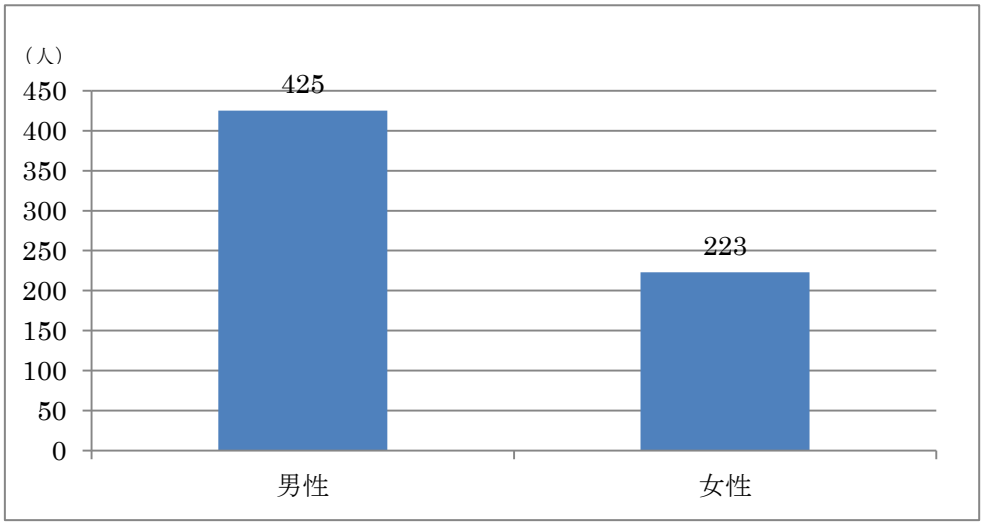
平成 27 年度



平成 28 年度

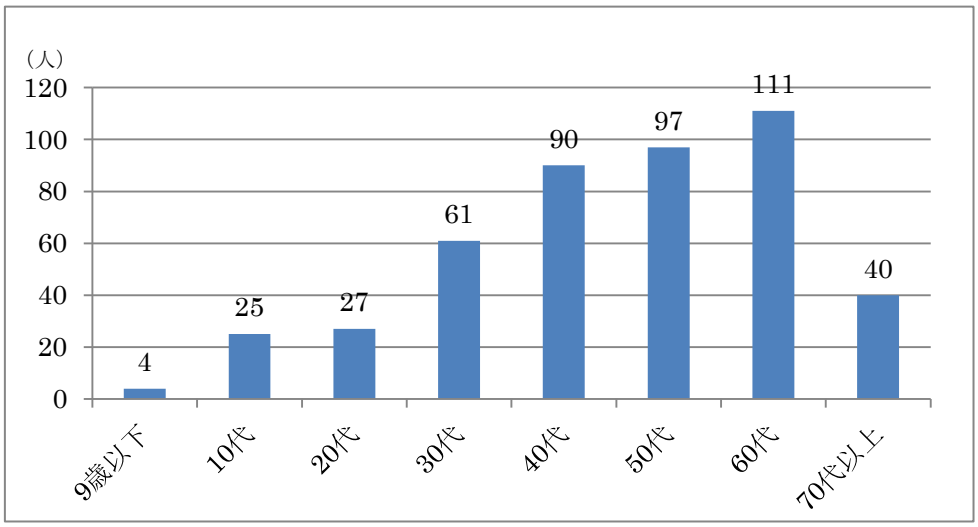


平成 29 年度

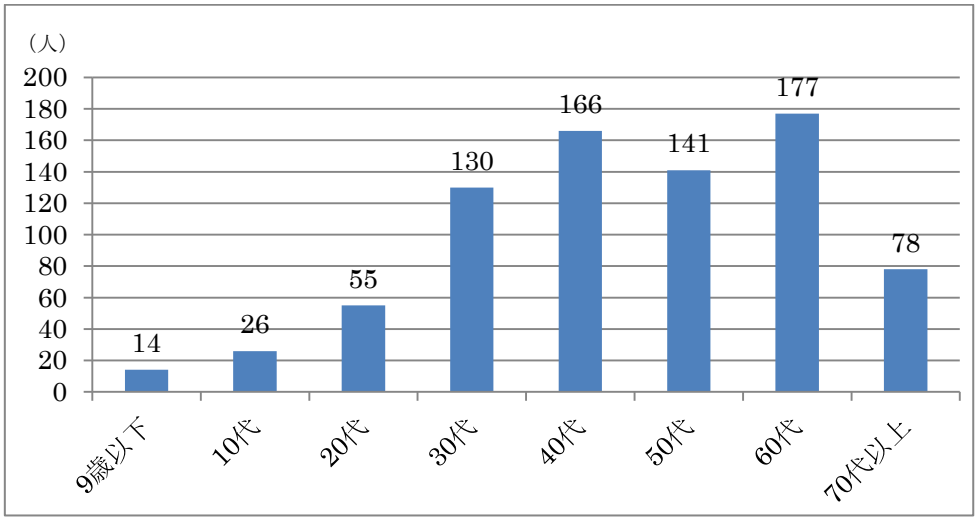


2　年代

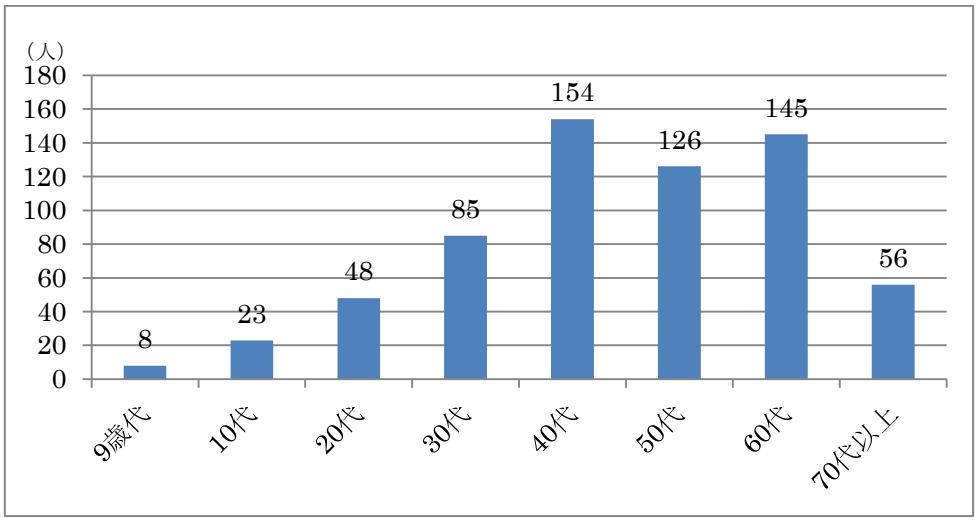
平成 27 年度



平成 28 年度

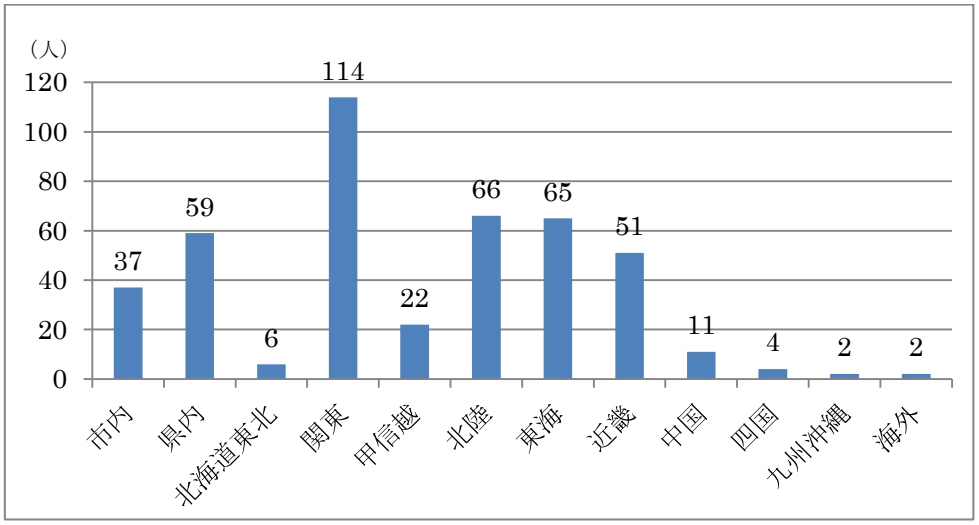


平成 29 年度

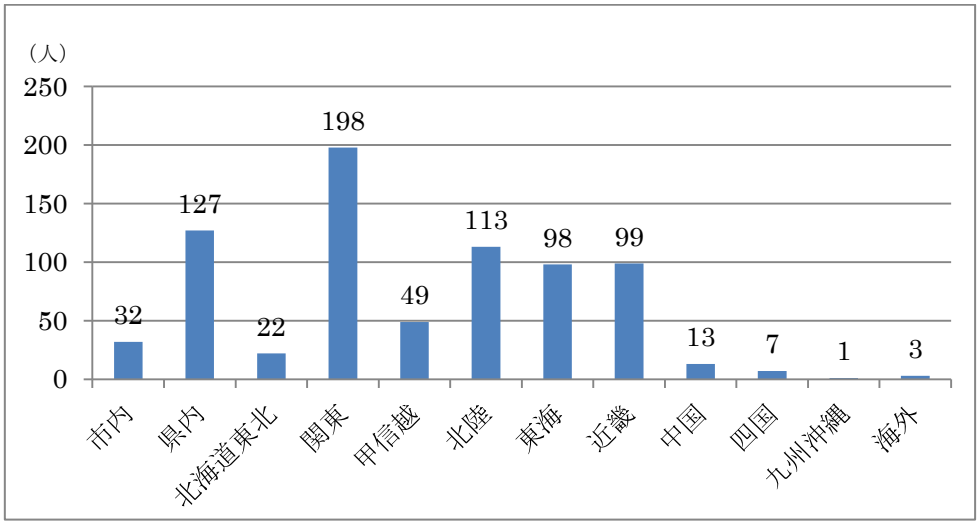


3 住所

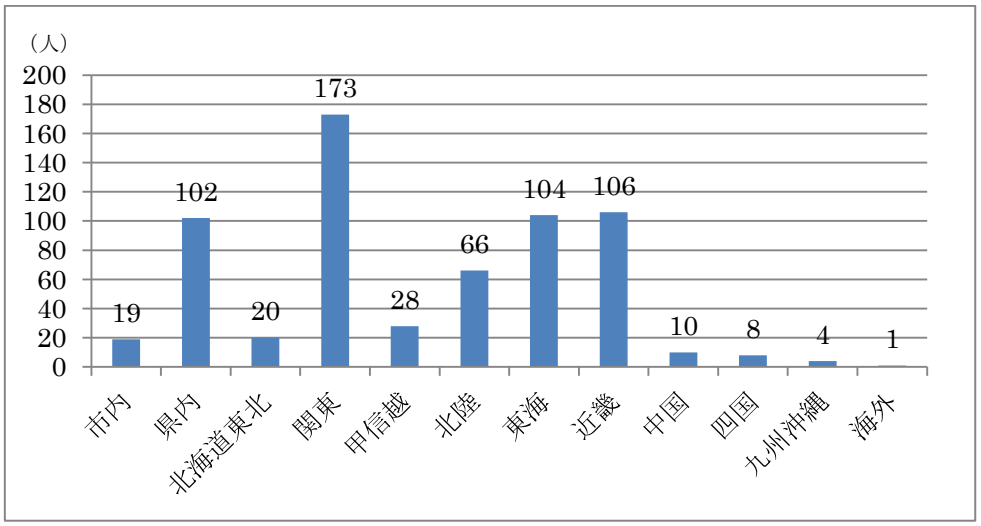
平成 27 年度



平成 28 年度

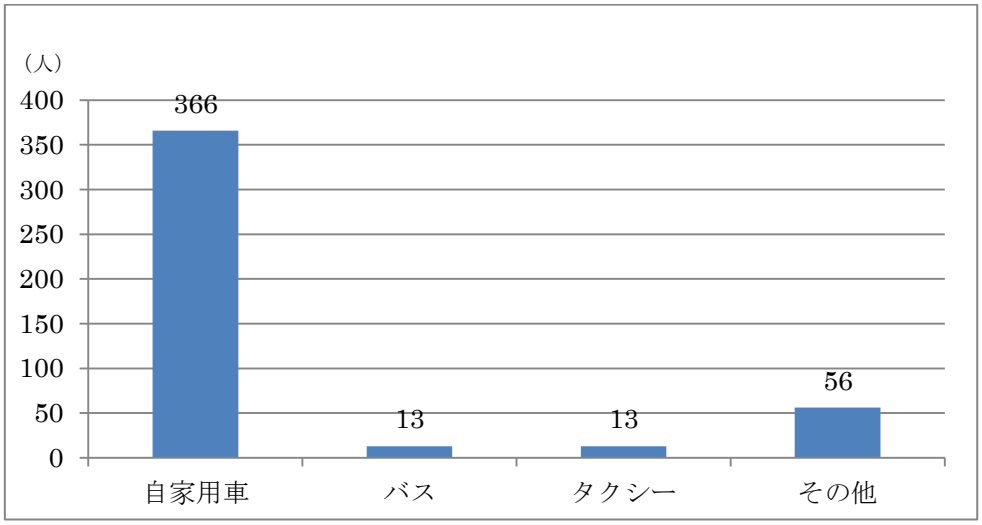


平成 29 年度

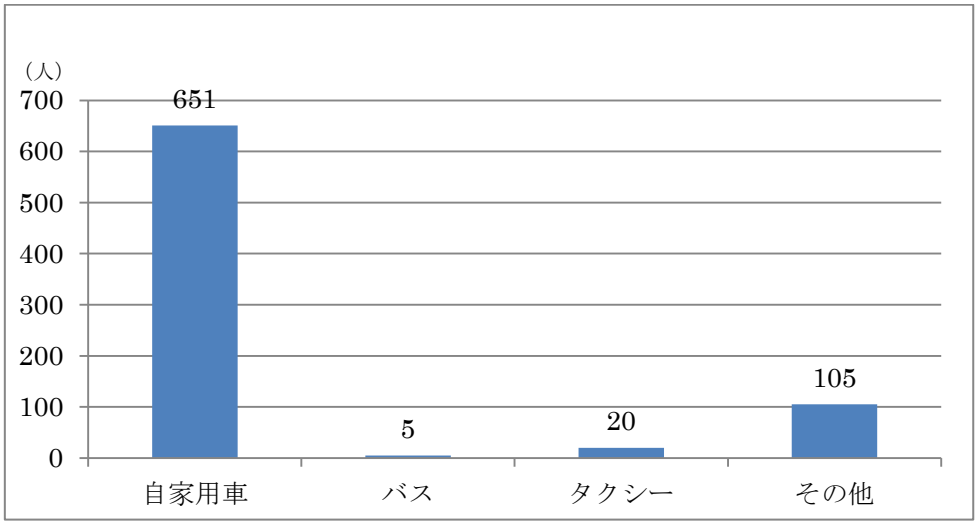


4 交通手段

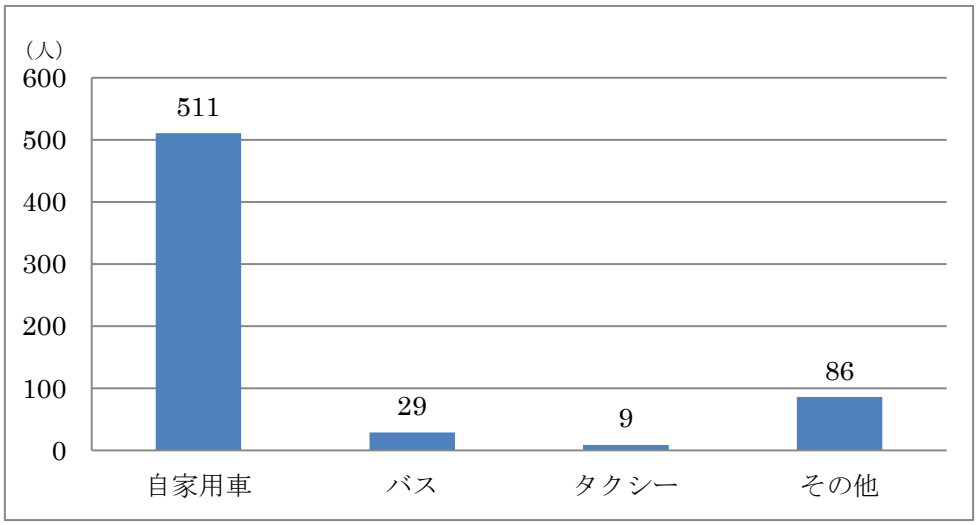
平成 27 年度



平成 28 年度

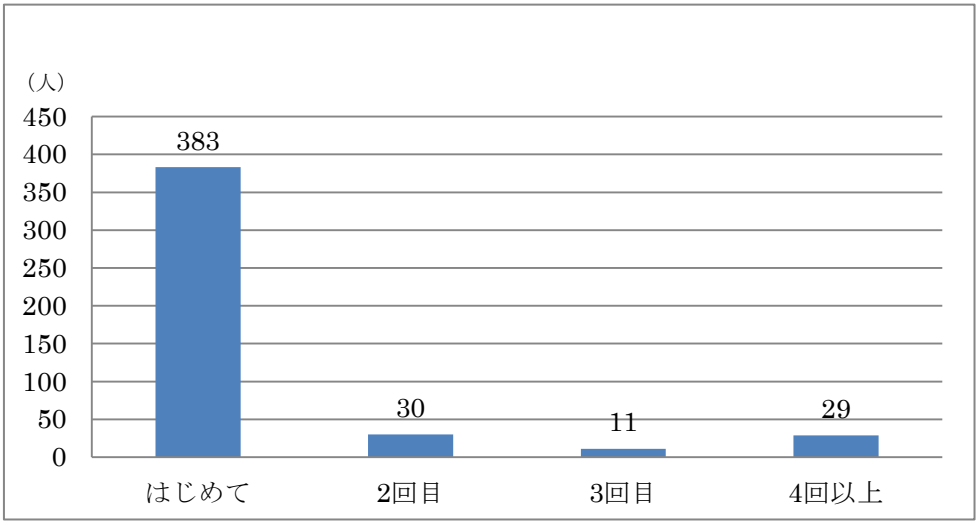


平成 29 年度

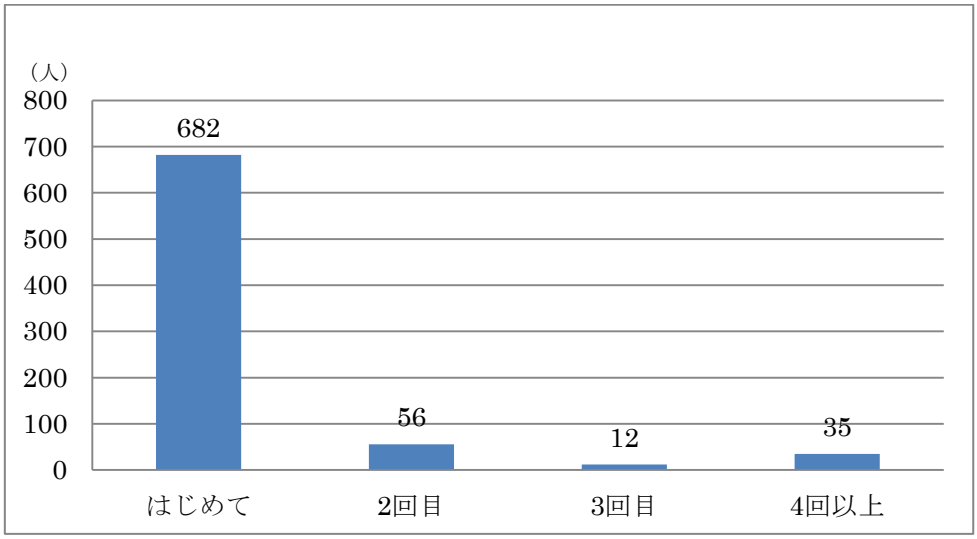


5 訪問

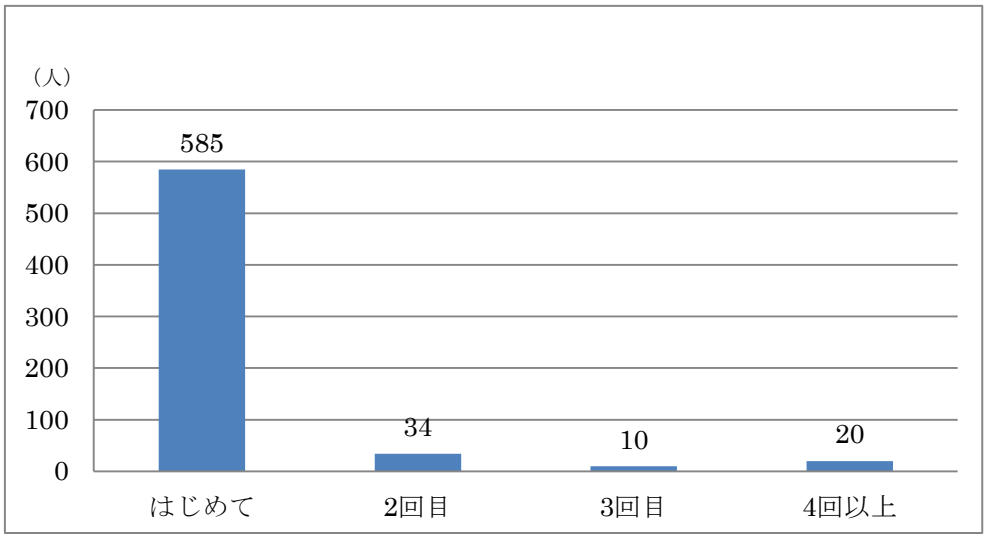
平成 27 年度



平成 28 年度

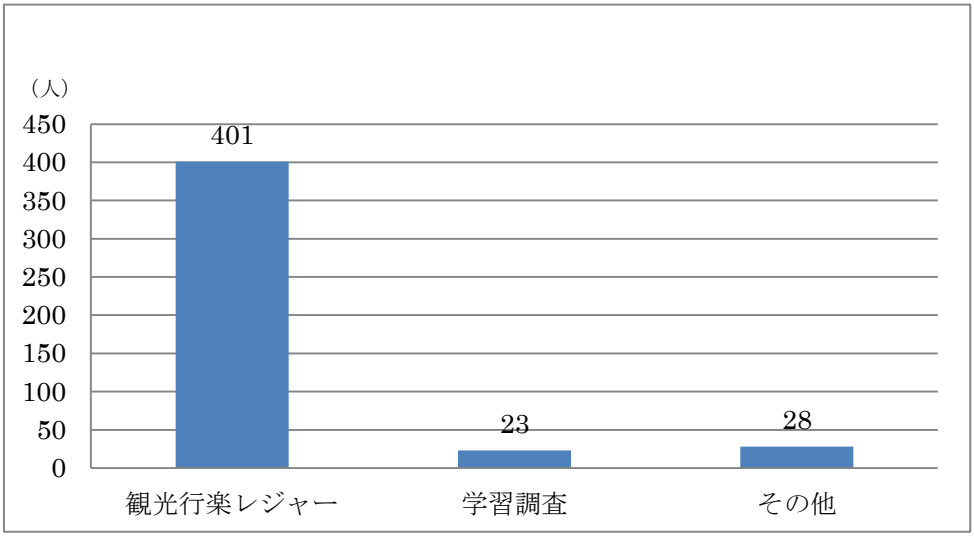


平成 29 年度

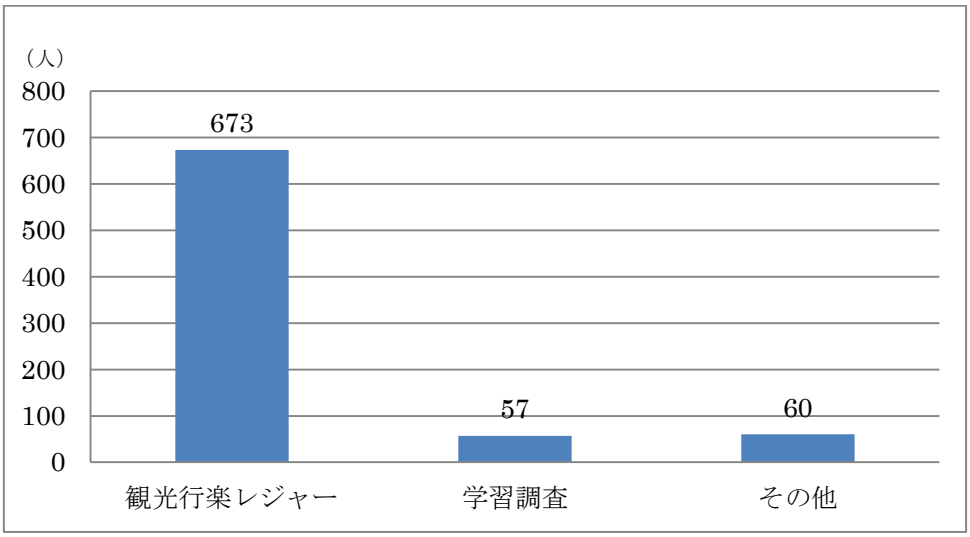


6　目的

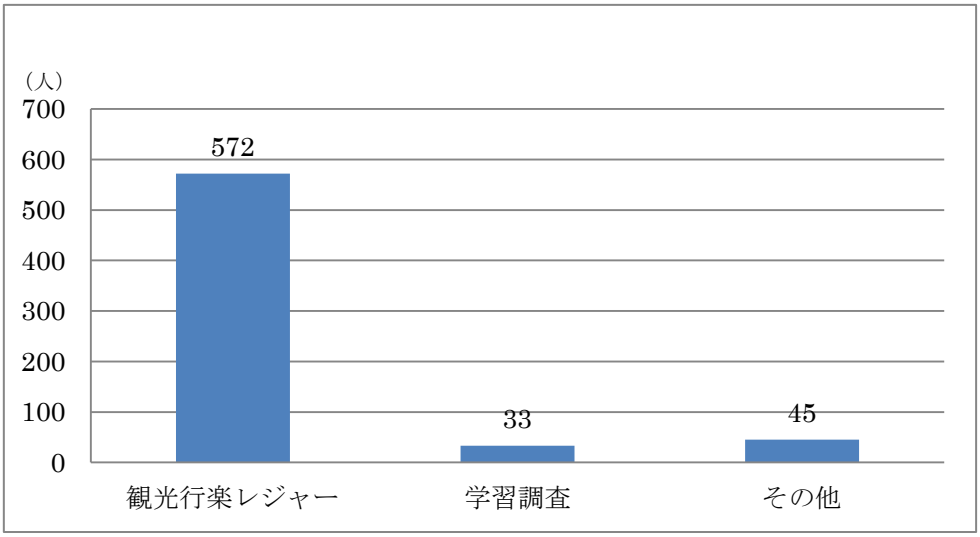
平成 27 年度



平成 28 年度

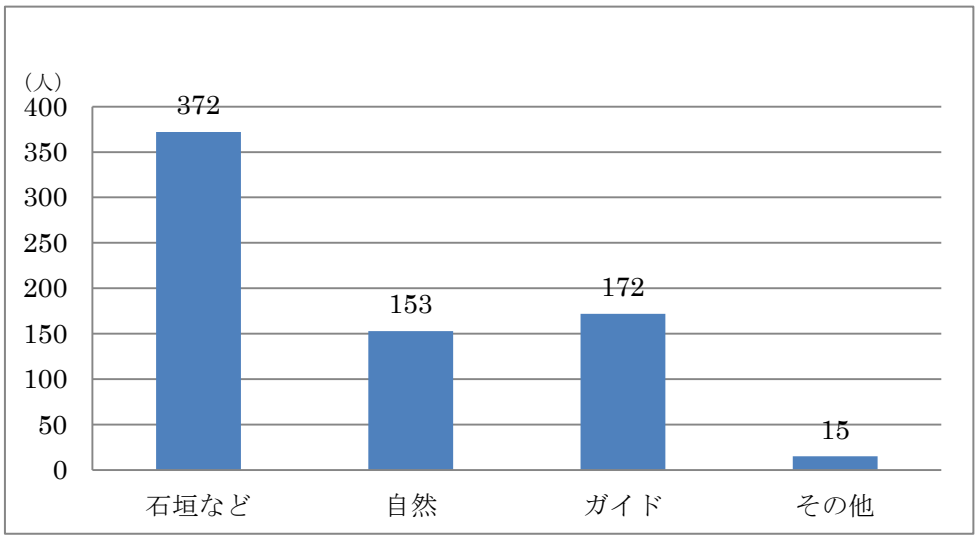


平成 29 年度

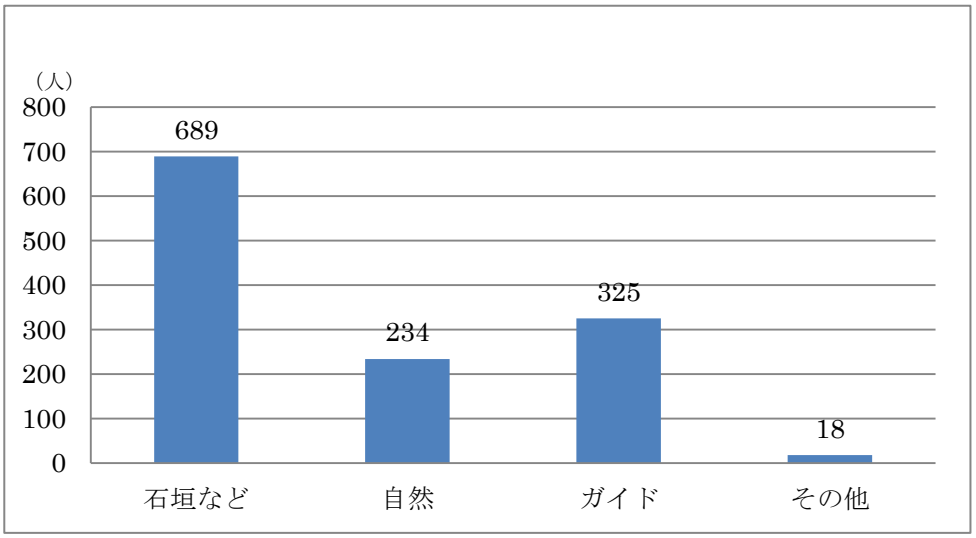


7 印象

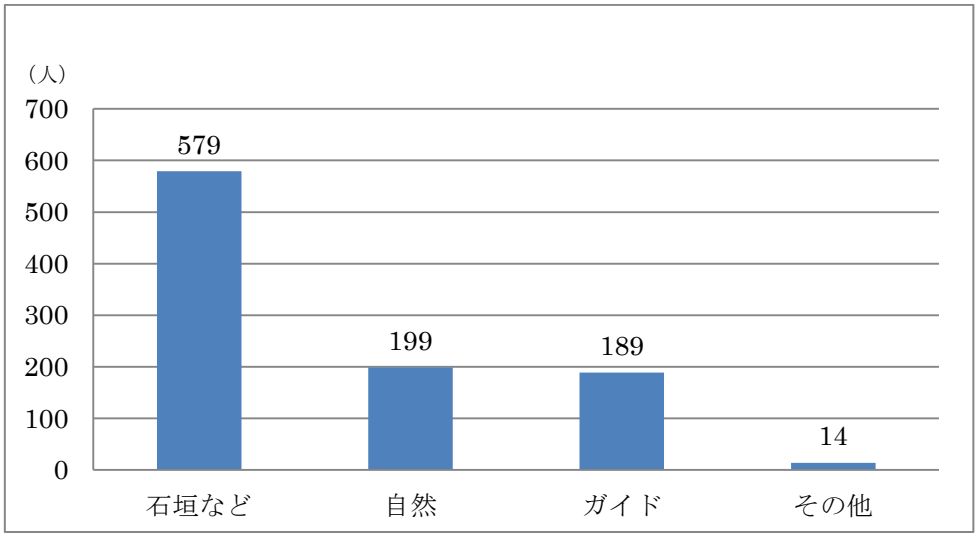
平成 27 年度



平成 28 年度

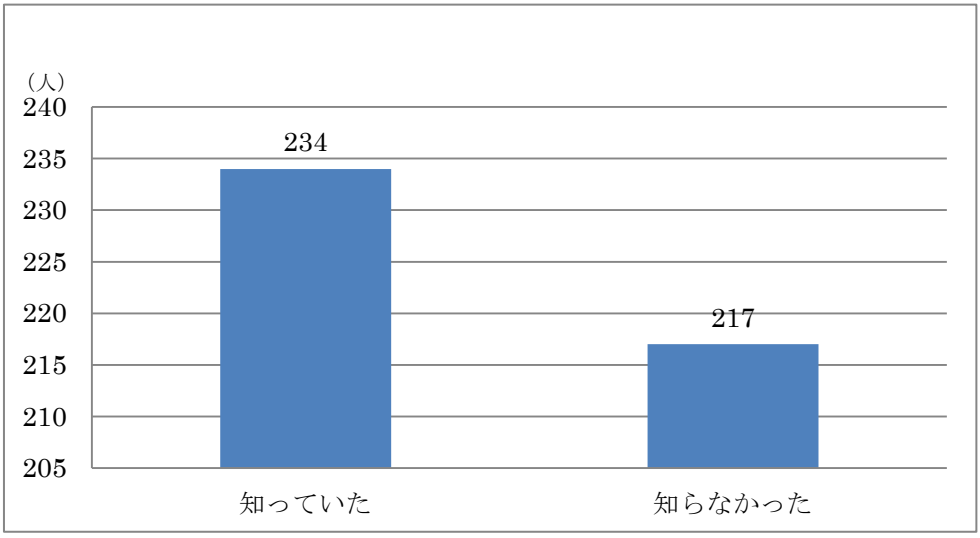


平成 29 年度

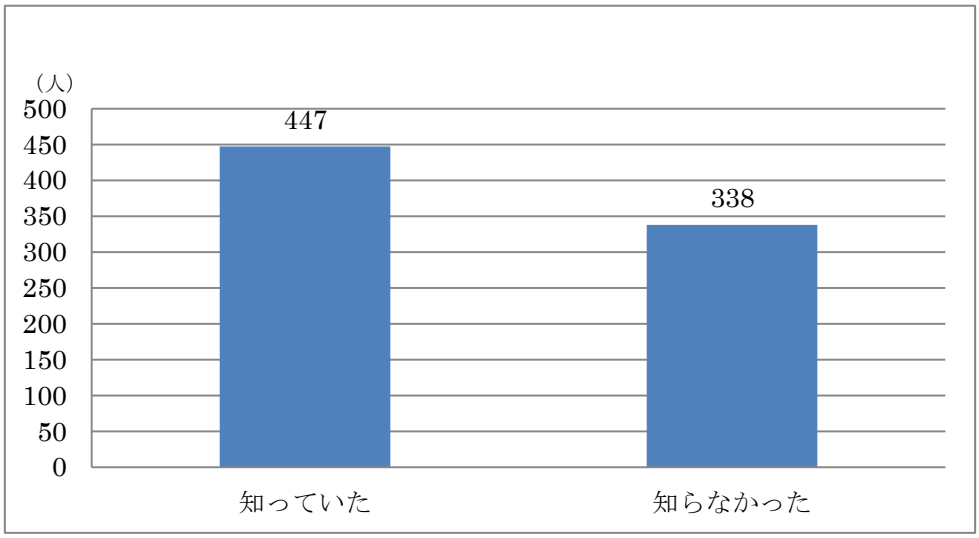


8　史跡

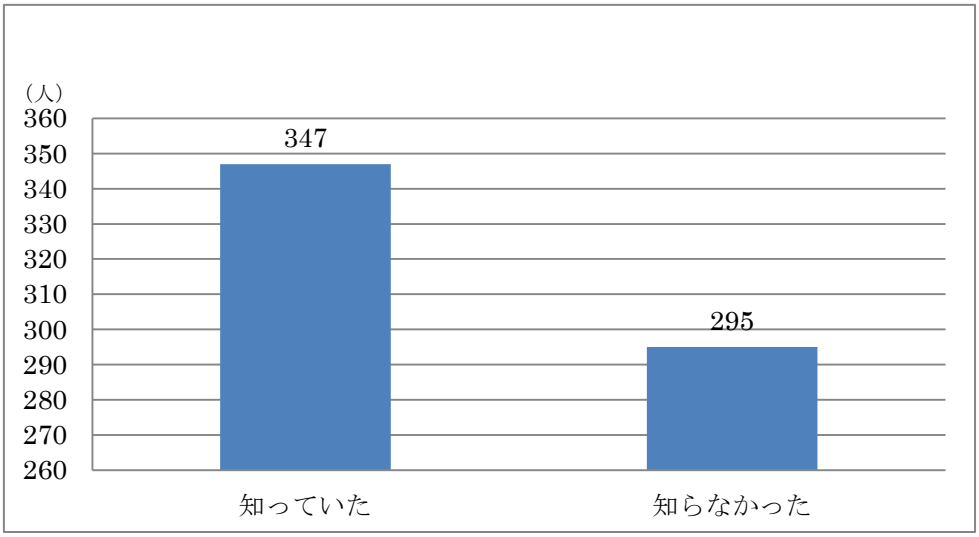
平成 27 年度



平成 28 年度

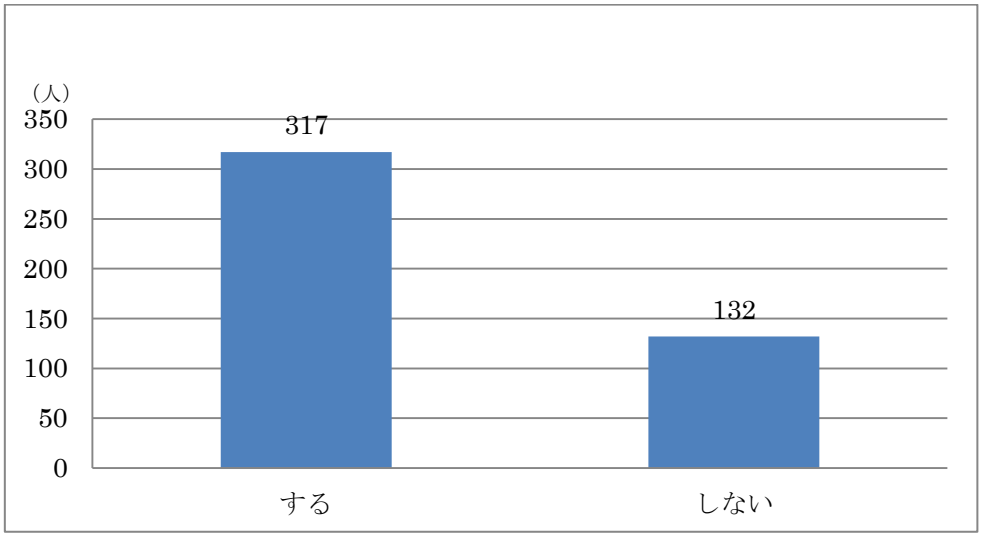


平成 29 年度

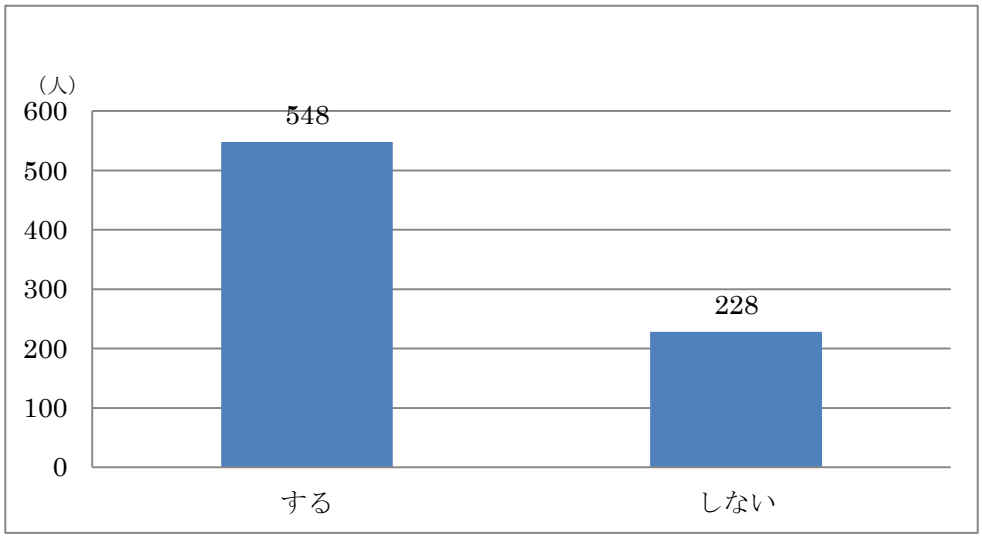


9　整備

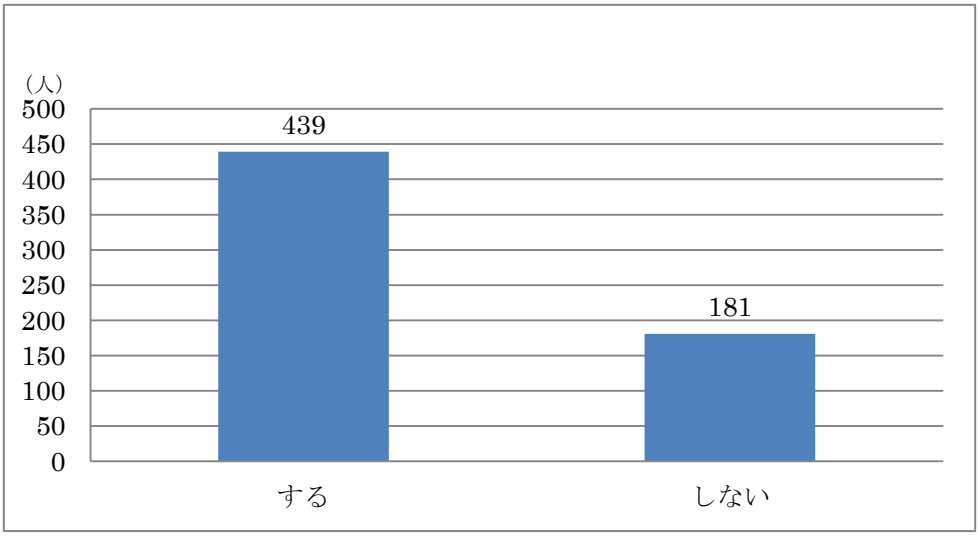
平成 27 年度



平成 28 年度

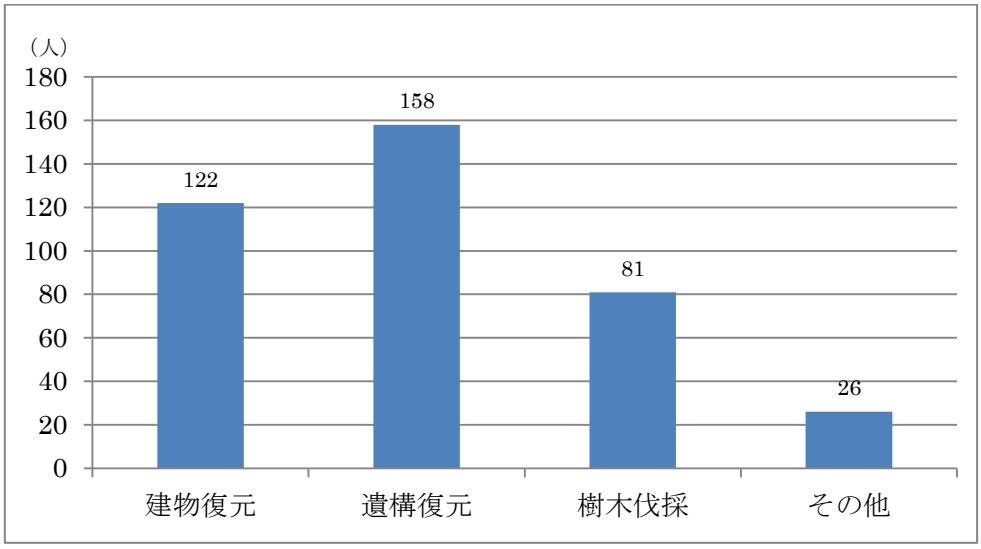


平成 29 年度

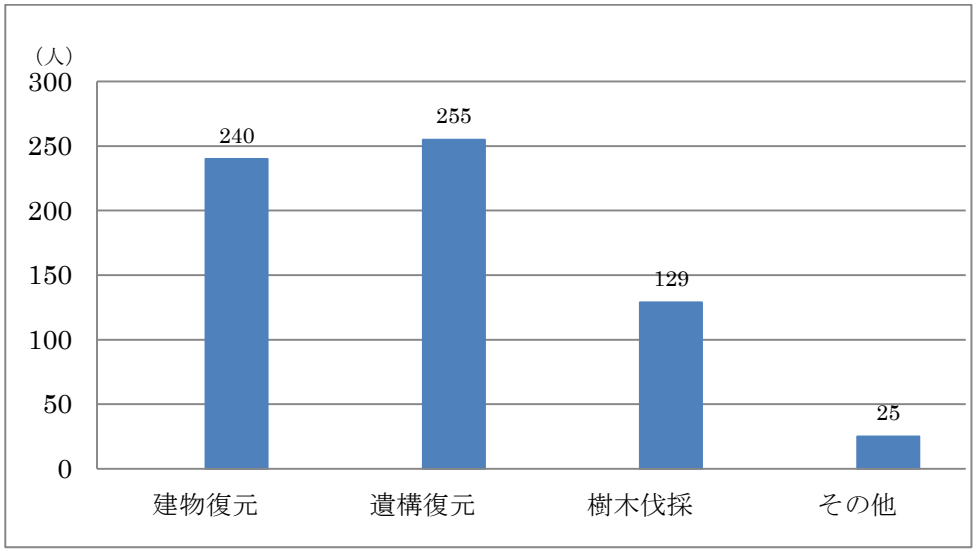


１０ 整備する人

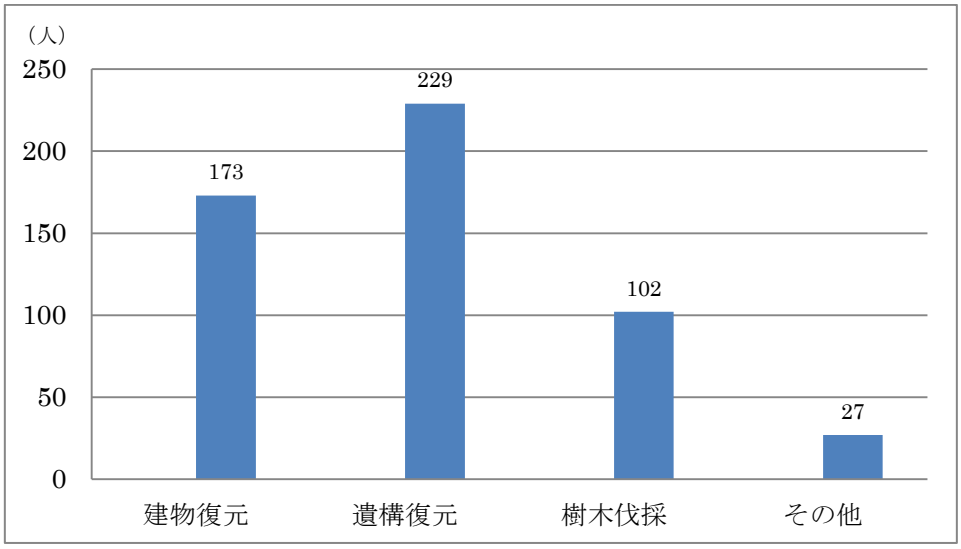
平成 27 年度



平成 28 年度

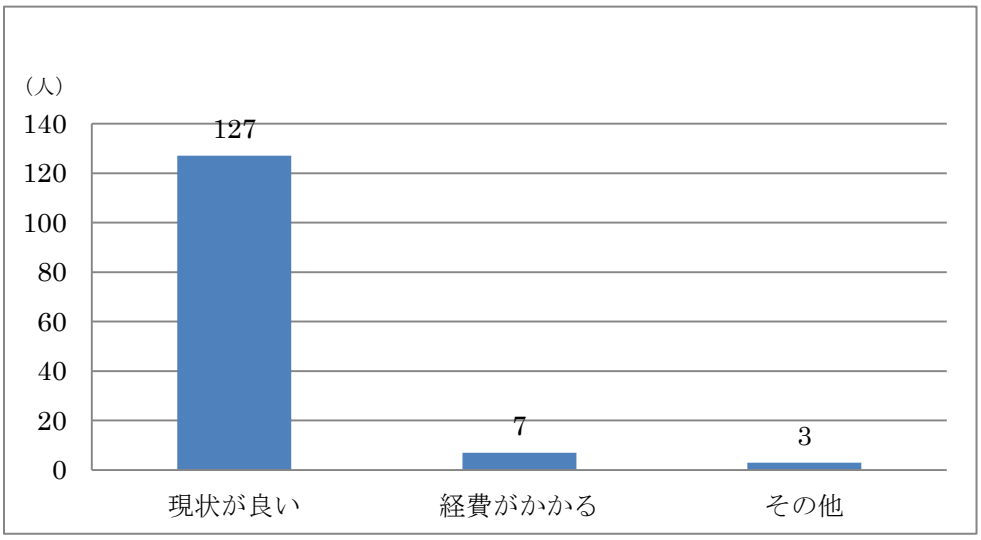


平成 29 年度

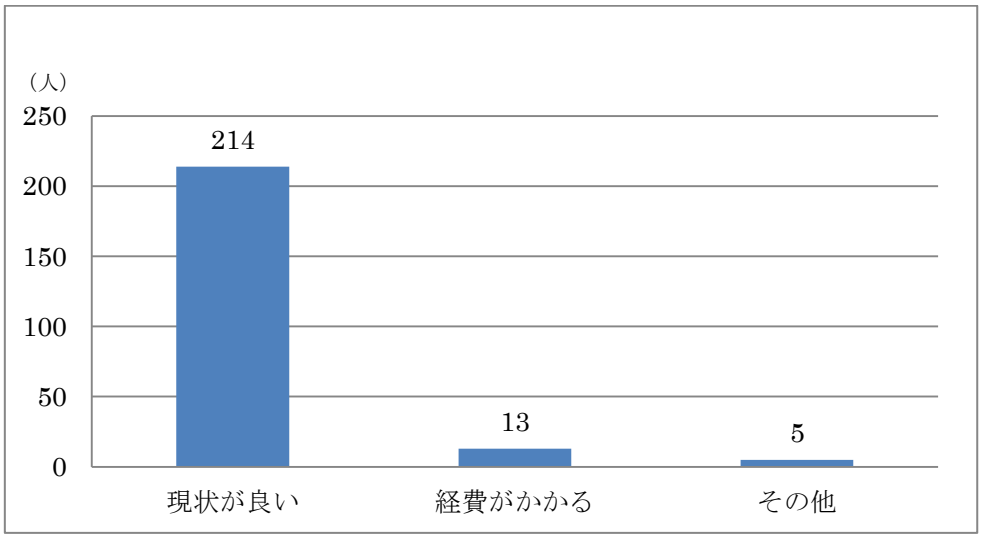


１１ 整備しない人

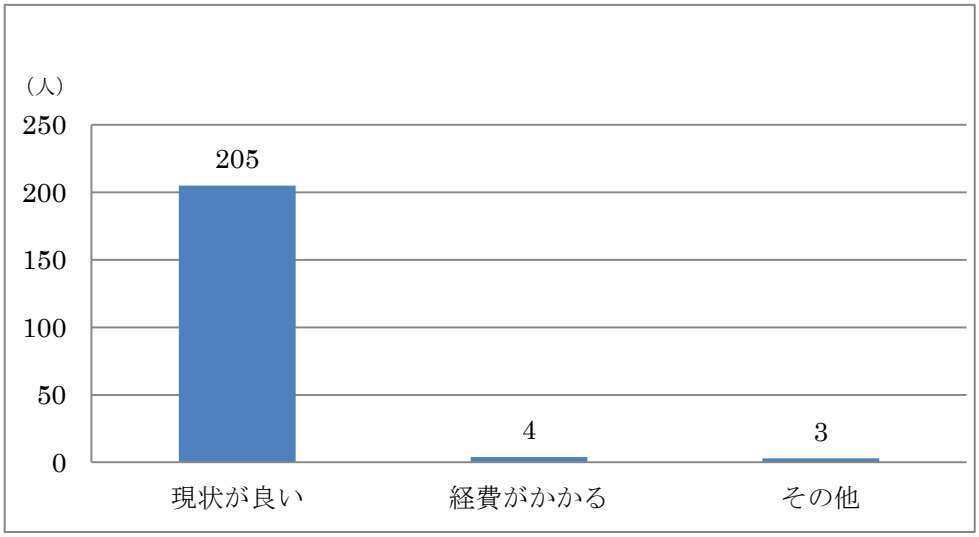
平成 27 年度



平成 28 年度



平成 29 年度



アンケート結果から見た七尾城跡の保存活用の取り組みに関する今後の課題について

本アンケート調査は七尾市教育委員会が七尾城跡への来訪者に対し、七尾城跡の保存・活用・整備に活かす目的で実施したものである。期間は平成２７年８月から同２９年１０月の土・日・祝日、冬季を除く約 14 か月（延べ１１０日）である。職員のほか、七尾市観光ボランティアガイド「はろうななお」の皆様にご協力をいただき、およそ１９００人から貴重なご意見を得た。以下、アンケートの集計結果を分析し、七尾城跡の保存・活用・整備について今後の課題を考えてみたい。

(1) アンケート結果の分析

まず、②年代を見ていくと、来訪者の多くは「30 代」から「60 代」に集中している。また、④交通を見ていくと「自家用車」、⑥目的を見ていくと「観光・行楽・メジャー」で占められている。このことから、10 代以下の来訪者は主に家族旅行等の一環として来訪していることが推測される。よって、来訪者数の増加を考えた場合、20 代と 70 代へ働きかけることが必要になってくると考えられる。

次に、③住所を見ていくと、「関東」が最も多く、次いで「東海」・「北陸」・「近畿」となっており、来訪者の大半は北陸に隣接する人口密集地（関東・東海・近畿）に集中していることが分かる。しかし、④交通では「自家用車」が、⑥目的では「観光・行楽・メジャー」が大半を占めていることから、自家用車での個人旅行・家族旅行に比べると、観光ツアー等での来訪は多くないとみられる。

また、⑤訪問を見ていくと、複数回来訪された方は少なく、ほぼ「はじめて」の方で占められている。中には「４回以上」来訪された方も見られるが、その多くは市内の方で、健康づくりや散歩（ウォーキング）等日常的に来訪されている方であり、遠隔地から複数回来訪された方はごくわずかである。

七尾城跡の⑦印象では、来訪者の多くが「石垣などの遺構群」・「自然環境」に好感を持っていただいている。また、「ガイド」すなわち観光ボランティアガイド「はろうななお」の評判もよく、その親切な対応に好感を持つ来訪者も多かった。

最後に、⑨整備については、「すべき」と「すべきでない」の割合がおおよそ３：１であった。「すべき」では、「建物復元」・「遺構復元」といった城郭の整備に関する要望が多いものの、「樹木伐採」による自然環境・景観の整備に関する要望も多い。その他、遊歩道の整備等の要望もあった。また、「すべきでない」では、「現状が良い」が大半を占めているが、欄外等のコメントで、自然のままにすべきとの意見がある一方で、過度の整備に警戒するような意見もあり、回答者のすべてが整備そのものに反対しているわけではないように思われる。

（2）アンケート結果から見た今後の課題

まず、より多くの人に七尾城跡の魅力に触れていただき、保存の取り組みに対して理解を得ていただくためにも広報活動の充実は必要なことである。②年代を見ると、来訪者の多く

は30代から60代に集中しており、それらに比べて20代・70代が少ない。このことから、特に若者をターゲットとした広報活動を充実することで、20 代の七尾城跡への来訪数も増加するのではないかと思われる。また、③住所を見ると、北陸に隣接した人口密集地（関東・東海・近畿）に集中しており、これらの地域への宣伝活動を充実することはもちろん、それ以外の地域にも宣伝していく必要があると思われる。

七尾城跡の所在する七尾市は、石川県の北部、能登半島の中部に位置している。七尾城跡へアクセスする主な手段としては、自家用車や電車・バス等の公共交通機関が考えられる。自家用車では、北陸自動車道から能越自動車道もしくはのと里山海道を経由するルートが考えられ、特に近年開通した能越自動車道により、関東方面からのアクセスが容易となった。一方、公共交通機関ではＪＲ金沢駅からＪＲ七尾駅まで電車で移動し、そこからバス・タクシー等を利用することが考えられる。しかし、④交通を見ると、バスでの来訪者は極小である。バスは七尾城史資料館までしか行かず、そこから本丸跡までの移動手段が乏しいため、七尾城跡の中心部に足を運ぶことを敬遠する来訪者も少なからずいるようであり、資料館から本丸北駐車場までの送迎バスを運行するなど、バス等での来訪者の利便を図る必要があると思われる。

⑥印象を見ると、ほぼすべての来訪者が七尾城跡の遺構群や自然環境・景観に好印象をもっている。また、観光ボランティアガイド「はろうななお」の評判もよく、その親切な対応に好感を持つ来訪者も多かった。そのため、除草など日常管理に努めるとともに、ボランティアガイドと協力しつつ、七尾城跡の魅力を維持・発信していくことが重要である、しかし、⑤訪問を見ると、ほとんどが初めて来訪された方であり、リピーターの来訪は多くない。リピーターは七尾城跡の価値を理解し、普及への協力者となる可能性があり、来訪者に「七尾城跡にもう一度行ってみよう」と思ってもらえる工夫をする必要があると思われる。

最後に⑨整備を見ると、「すべき」と「すべきでない」の割合がおおよそ３：１で、特に「すべきでない」では「現状が良い」が大半を占めている。しかし、欄外のコメントでは、整備に絶対反対という声は極小であることから、現在の七尾城跡の持つ雰囲気を壊さず、自然環境との調和を図りながら整備を進めていくことが求められていると思われる。

以上、簡単にではあるが、アンケート結果から七尾城跡の今後の課題を抽出してみた。ここから得られた課題を踏まえ、引き続き七尾城跡の保存・活用・整備の取り組みに尽力していきたい。

ガイドの説明を聞く来訪者のようす（本丸北駐車場）

編集後記

七尾市の「たから」である七尾城跡については、能登畠山氏が築いた戦国時代の山城で戦国武将上杉謙信の猛攻にも耐えた“すごい城”、その謙信が感動して漢詩を詠むほど絶景が“すごい城”だということは知っていました。では、城郭としての七尾城は、どのようなところが“すごい城”なのか。そう聞かれると、うまく説明できないというのが正直なところでした。今回のフォーラムで、委員の先生方から航空レーザ測量の成果などについてご説明いただき、七尾城は大規模で巧みな構造を持った日本有数の城であることが分かり、あらためて七尾城は“すごい城”だったと実感しました。この“すごい城”を守り、伝えていくため、今後とも七尾城跡の保存・活用に向け、一所懸命に取り組んで参ります。

豪雨被害の確認作業のようす（長坂口手前）

（M.K）

七尾市は祖父母が住んでいることから、私にとって幼いころから馴染みの深い市です。七尾城跡についても小さいころから名前は知っていましたが、私自身は単に“遺跡”、“お城のあった場所”程度にしか思っていませんでした。フォーラムの成果を取りまとめていく中で、とても歴史的価値が高いということを知り、多くの方に知ってもらいたいと思いました。また「これからも七尾の宝を守っていきたい」、「名実ともに日本一の遺跡にしてほしい」など、市民の皆様のご意見・ご感想を拝見していくうちに、七尾城はとても愛されている城跡なのだと、ひしひしと感じました。今後は、市民の皆様の声を七尾城跡の保存・活用・整備の取り組みに活かしていくとともに、県内外の方々にも愛される七尾城を目指して行きたいと思います。

市民に愛される七尾城跡（本丸）

（H.K）

史跡七尾城跡保存活用計画策定フォーラム
七尾城跡航空レーザ測量図から探る七尾城の実像　実施報告書
編　集　七尾市教育委員会スポーツ・文化課 七尾城跡保存活用推進室
発　行　七尾市教育委員会
発行日　平成 30 年 7 月 31 日
発行所　七尾市教育委員会
〒926－8611　石川県七尾市袖ケ江町イ部 25 番地
電話 0767－53－8437　ﾌｧｯｸｽ 0767－52－5194
E-mail：sportsbunka@city.nanao.lg.jp